

5713



2009年度 第2四半期 経営戦略進捗状況説明会

住友金属鉱山株式会社

2009年11月6日



説明内容

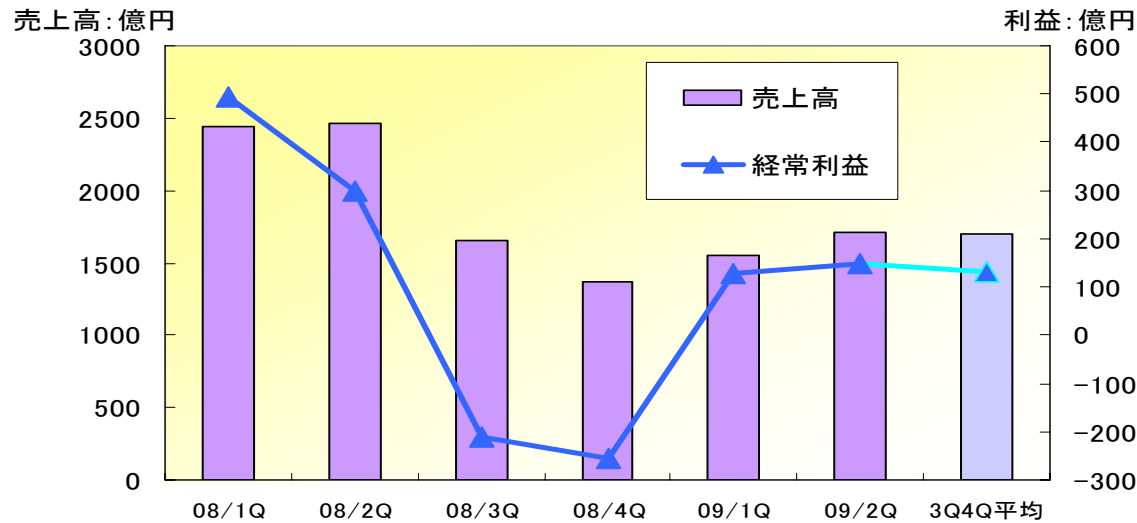
- I . 2009年度の収益確保
- II . 09中計へ向けて
- III . 当社事業の景況感と金属市況
- IV . 業績ハイライト

I . 2009年度の収益確保



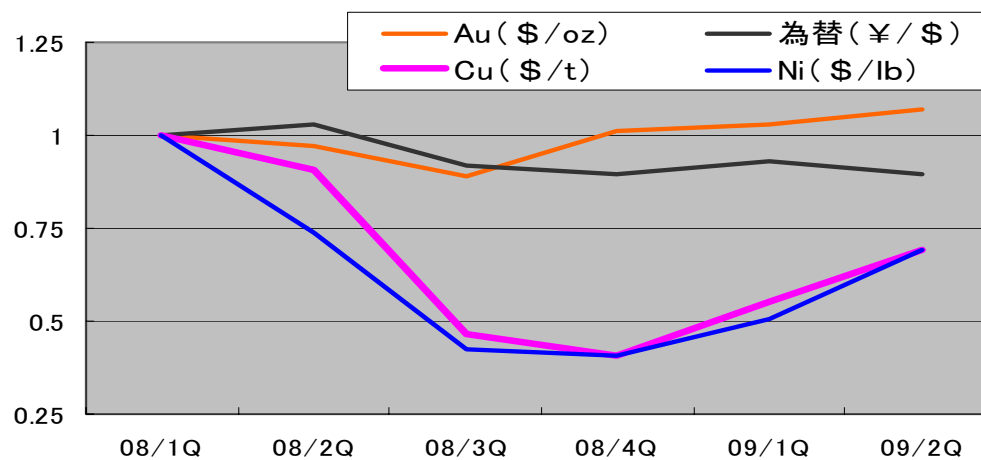
夜明け(コーラルベイニッケル)

1)業績は底を打ったか？



【業績回復の背景】

- ・緊急経営総合対策実施
- ・金属価格の上昇
(中国等金属需要増加)
- ・電子機能性事業の回復



【9/7業績予想の修正】

- ・2009年度 経常利益
4月予想 110億円
9月予想 540億円
- ・2Q累計実績 278億円

2) 黒字必達 緊急経営総合対策の進捗

「収益最大化・コストミニマムの事業運営」に徹する

- (1) 仕上コスト引下・オペレーション効率UP
- (2) 投資・探鉱費は戦略PJに絞込む
- (3) 不採算事業・製品の選択と集中促進



総額150億円の費用削減 2Q迄 約100億円を達成

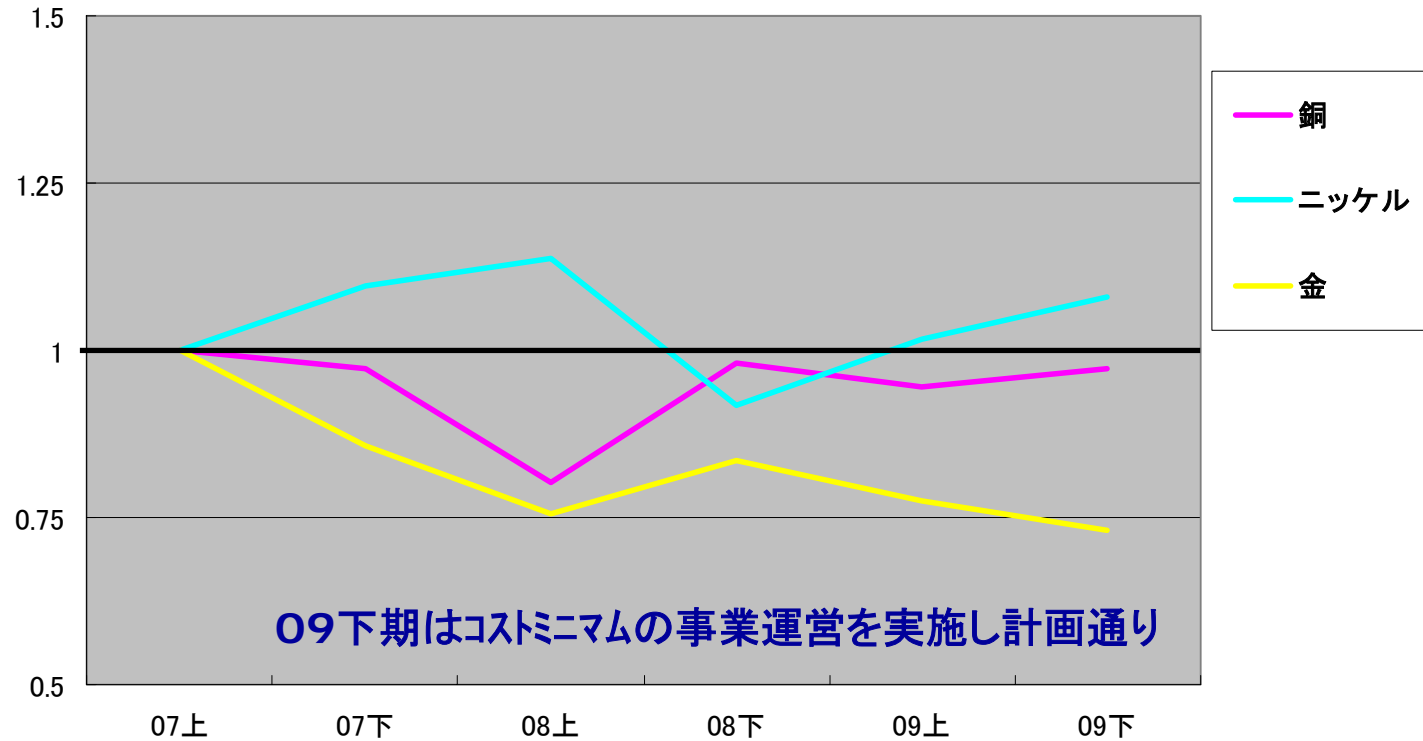
(年間目標) 資源・金属 (100億円) / 電子・機能性 (50億円)

【100億円の内訳】 エネルギーコスト30億円(50)、修繕料20億円(30)、
管理可能費20億円(30)、労務費等30億円(40)

電子機能性材料事業の事業再編進む

3) 金属生産動向

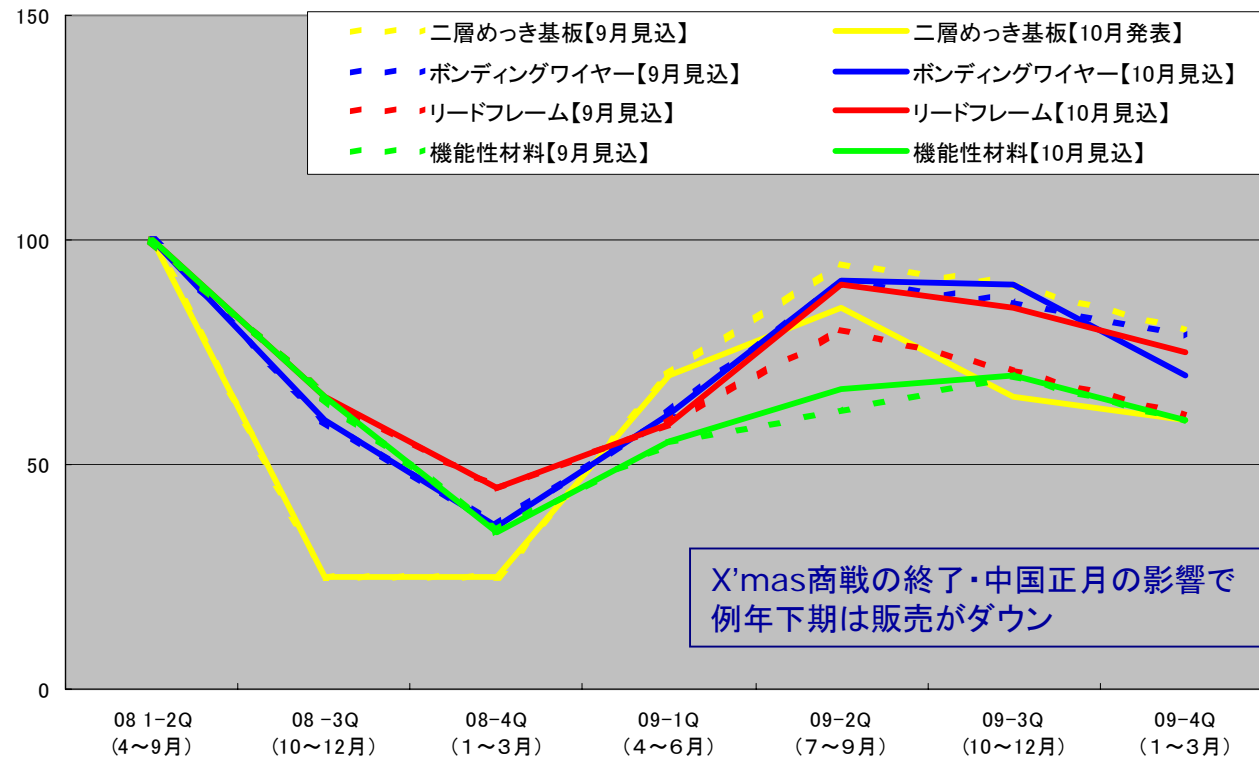
INDEX (07上期=1.0)



(国内)		07上	07下	08上	08下	09上	09下計画
銅	t	206,621	200,670	165,884	202,783	195,195	201,000
ニッケル	t	25,376	27,818	28,891	23,267	25,776	27,400
金	kg	24,602	21,085	18,618	20,529	19,071	18,000

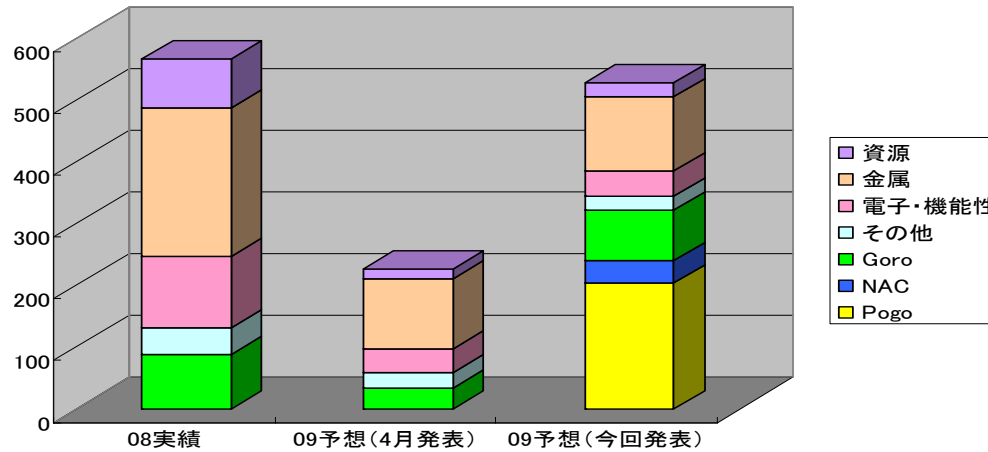
4) 電子・機能性材料販売動向

INDEX (08上期=100)



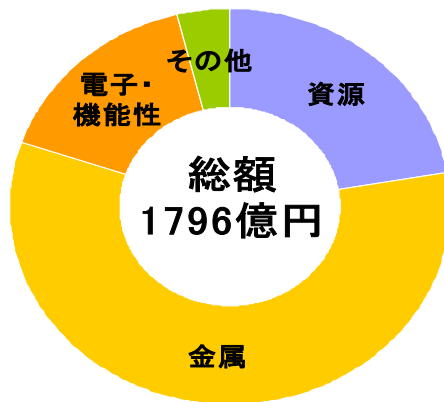
- ・ 1Q・2Qは4月予想を上回る回復 → 9月予想を上方修正
- ・ 3Q・4Qは9月予想比、L/F(半導体)はUP、二層めっき基板(液晶)はDown
全体ではほぼ9月予想並み

5) 資本的支出～成長戦略投資を実行



	(億円)
07年実績	703
08年実績	566
09年予想	527
計	1,796

権益取得を含む 実績予想



権益取得を除く 06中計



内権益取得 461
差引計画ベース1,335
 * ほぼ06中計通り

(権益取得 461内訳)	金額 (億円)
・Pogo権益	203
・NAC株式	37
・Goro PJ	221

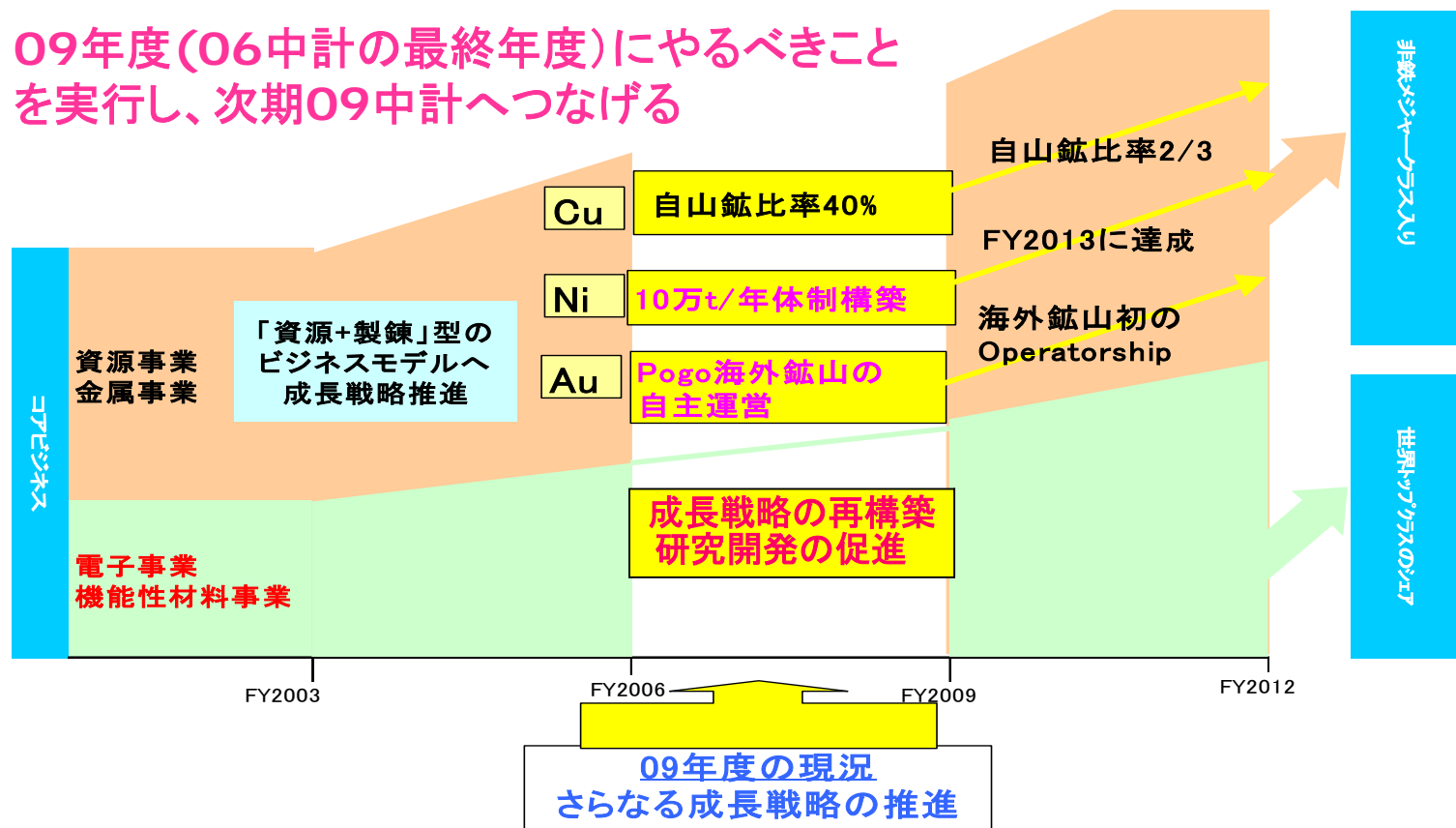
Ⅱ. 09中計へ向けて



さんご礁(コーラルベイニッケル近く)

1) 06中計の現状と09中計へ向けて

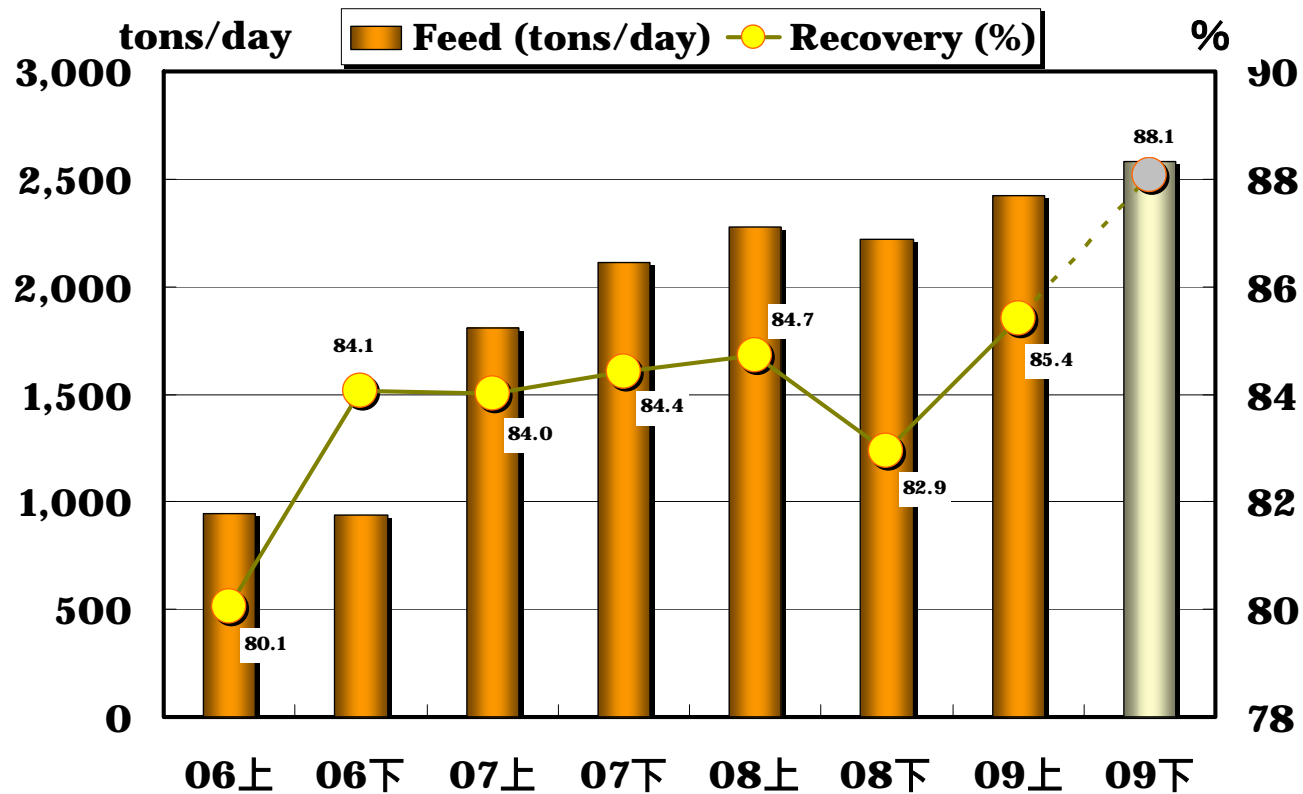
09年度(06中計の最終年度)にやるべきことを実行し、次期09中計へつなげる



2) Pogo100%権益取得後の状況

① 操業実績推移 - 処理量 & 実収率

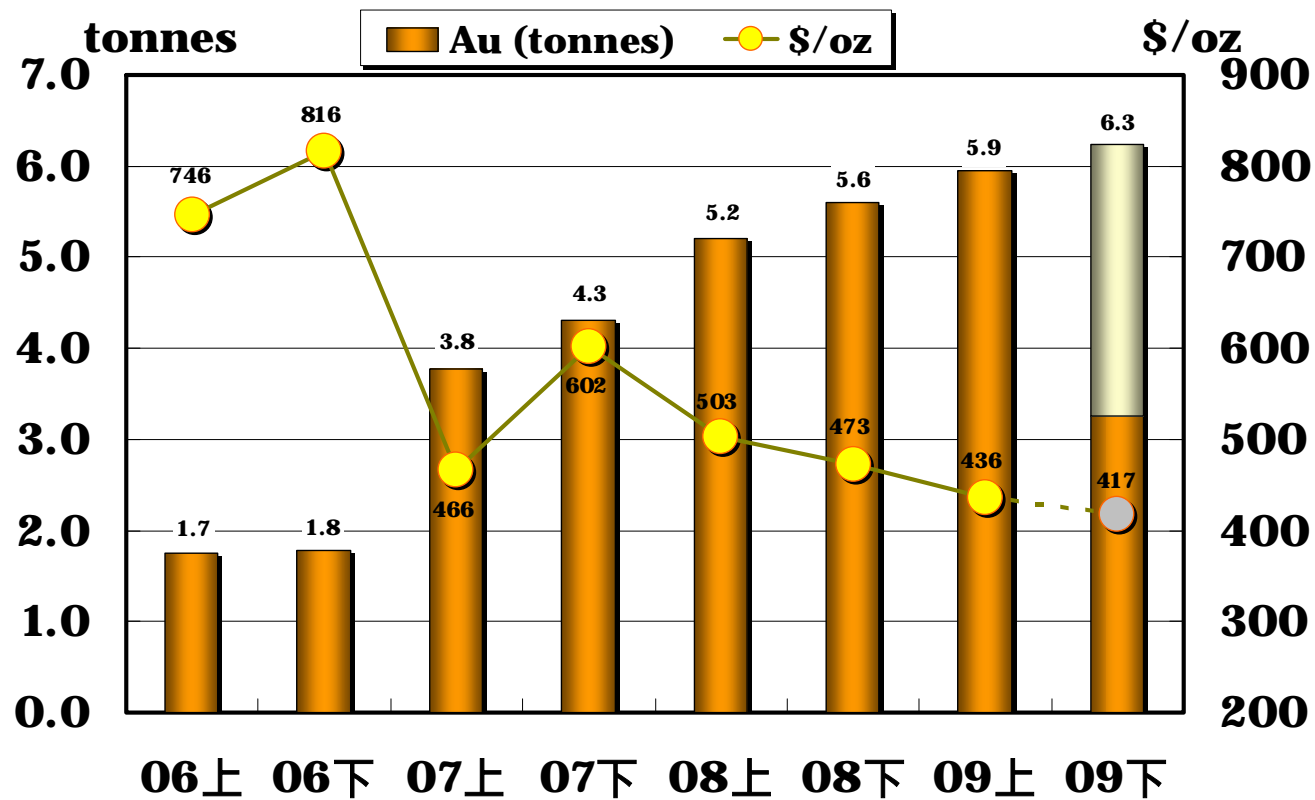
09上・下 処理量 & 実収率の大幅な改善



* 09下は実績予想

2) Pogo100%権益取得後の状況 ② 操業実績推移 - 金量 & コスト

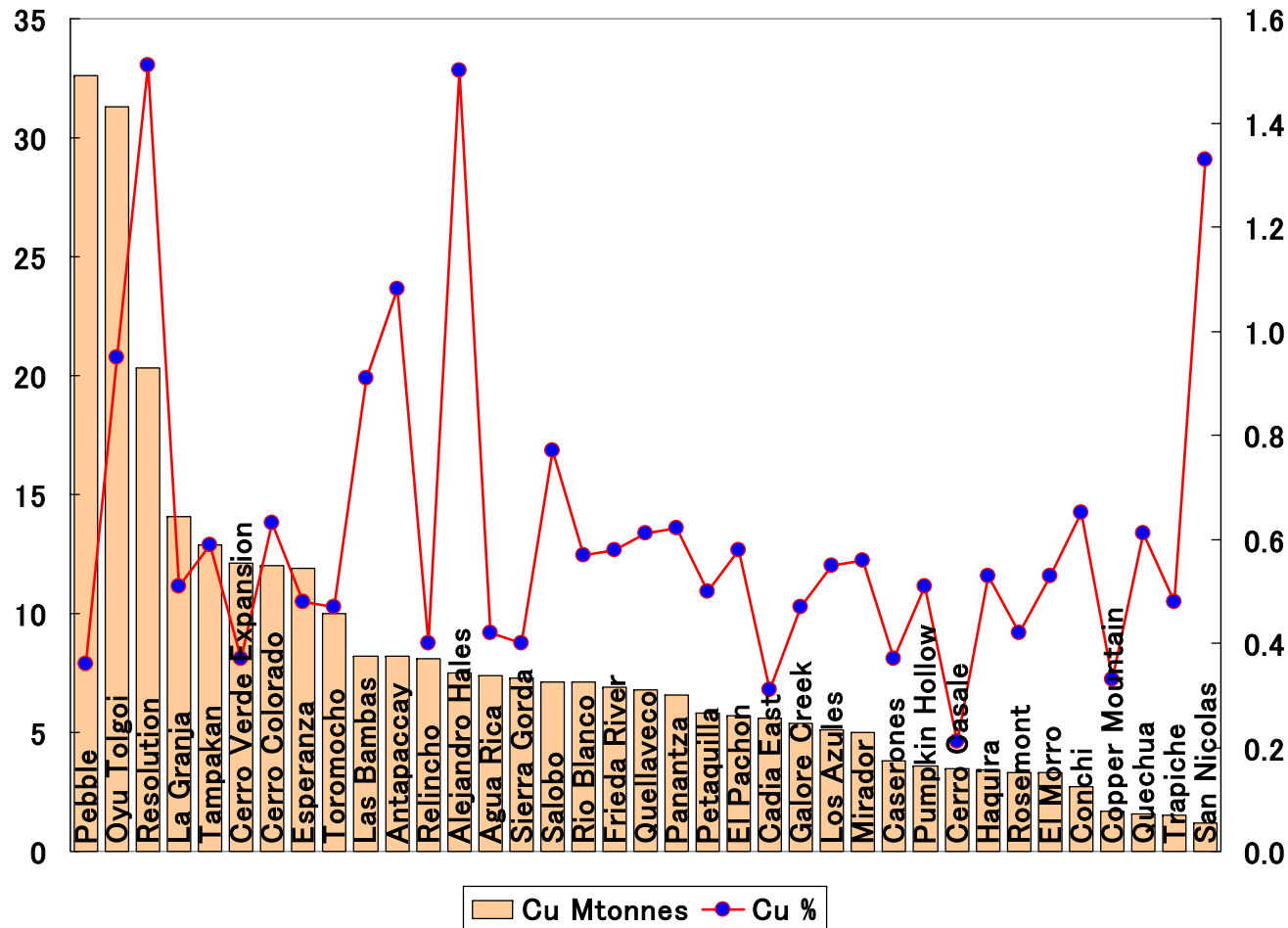
09年金量12tの達成 ・ さらなるコストダウン



* 09下は実績予想

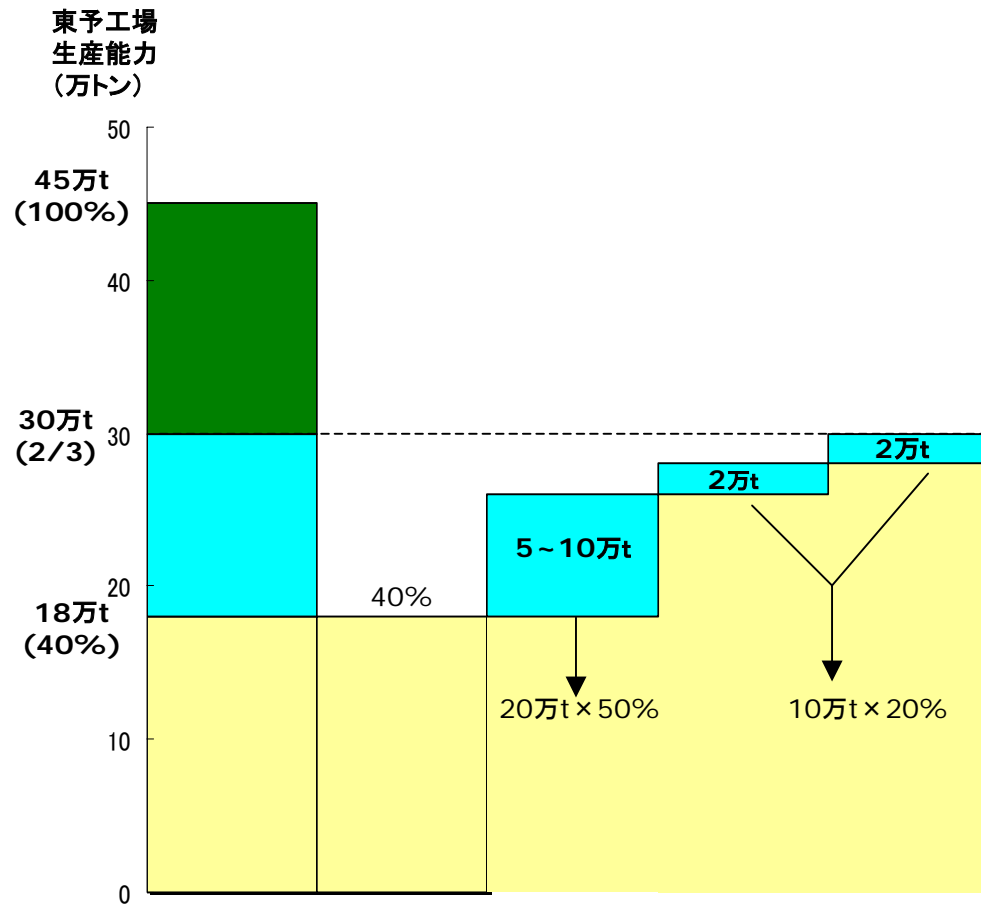
3) Cu自山鉱比率2/3達成へ向けた取り組み

①銅開発案件の埋蔵銅量と品位



(出典: Metals Economics Group)

3) Cu自山鉱比率2/3達成へ向けた取り組み ②銅量確保の手段

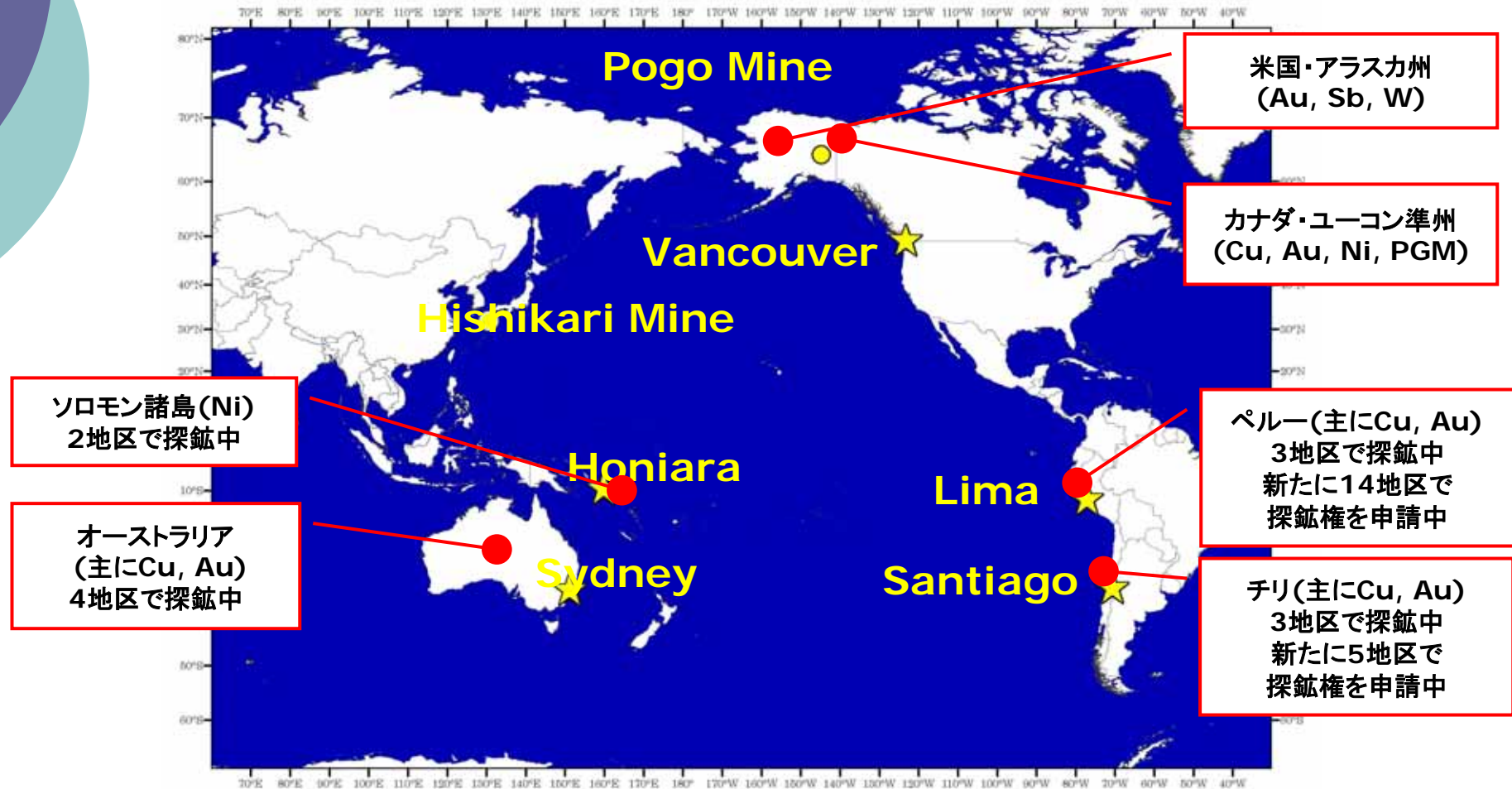


自山鉱比率2/3 Cu量300ktpa確保の手段

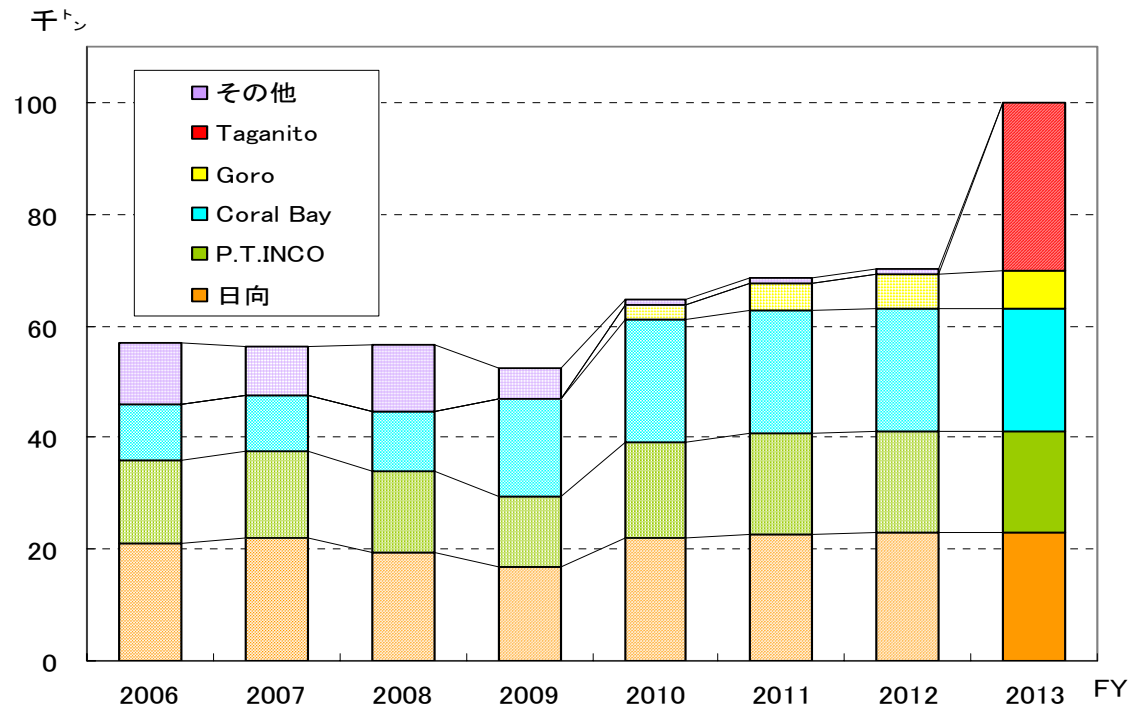
- 1) 自社開発
探鉱から開発まで
10年単位のPJ
権益Majority確保
- 2) 開発案件への参入
権益Minor:20~49%
- 3) 既鉱山の増産
- 4) 操業中の鉱山への参入
M&A

4) 主な探鉱活動

09年度探鉱費を抑制したが積極的な探鉱推進



5) ニッケル事業：10万吨体制



(1) 09年度 CBNC・Ni工場増産垂直立上
Coral Bay II 生産開始
Capa.10kt ⇒ 22kt (生産17kt)
Ni工場能力 36kt ⇒ 41kt (生産33.2kt)

(2) Goro 09年第4Q商業生産開始見込み

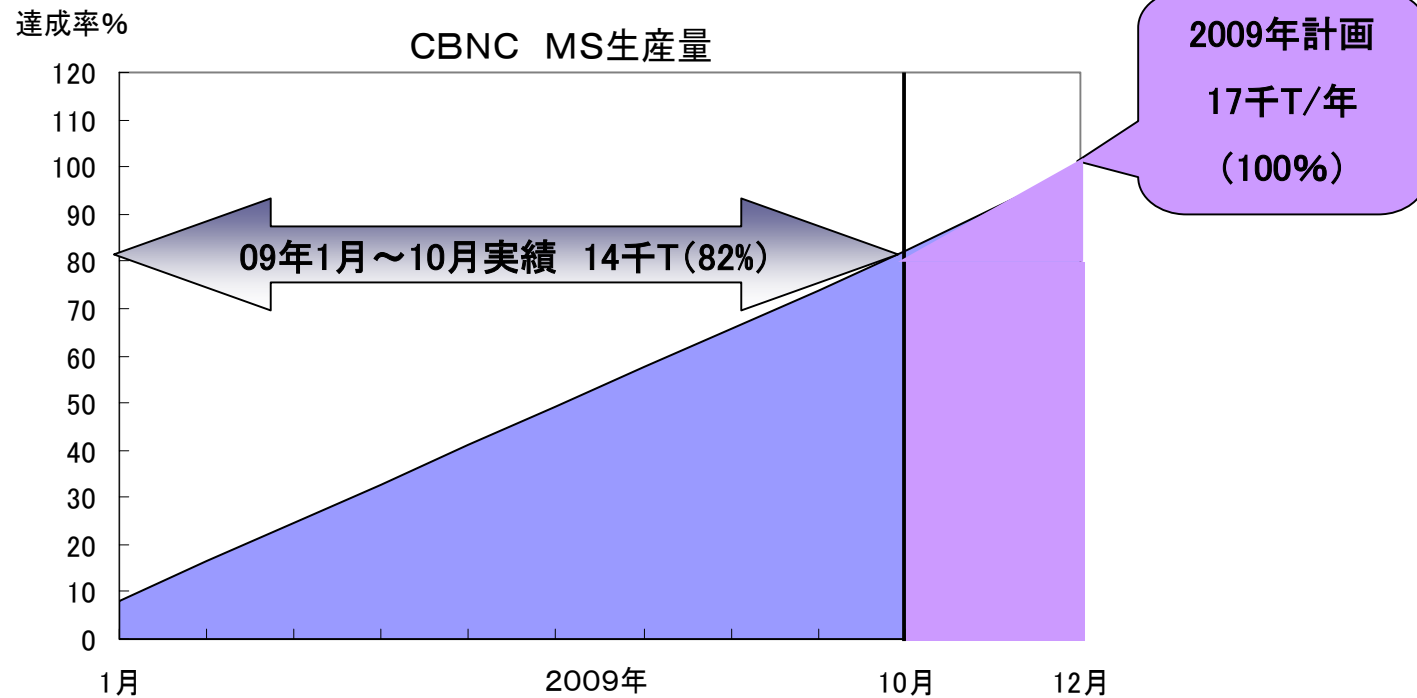
(3) Taganito 9/147°レスリース Capex 1.3BUS\$ Capa30kt
Projectスタート 2013生産開始をめざす

(4) 2013 Ni工場能力 41kt ⇒ 65Kt

(5) 2010 P.T.INCO 200M-pounds生産開始 15kt ⇒ 18kt

5) ニッケル事業：10万吨体制

① CBNCⅡの垂直立上げ

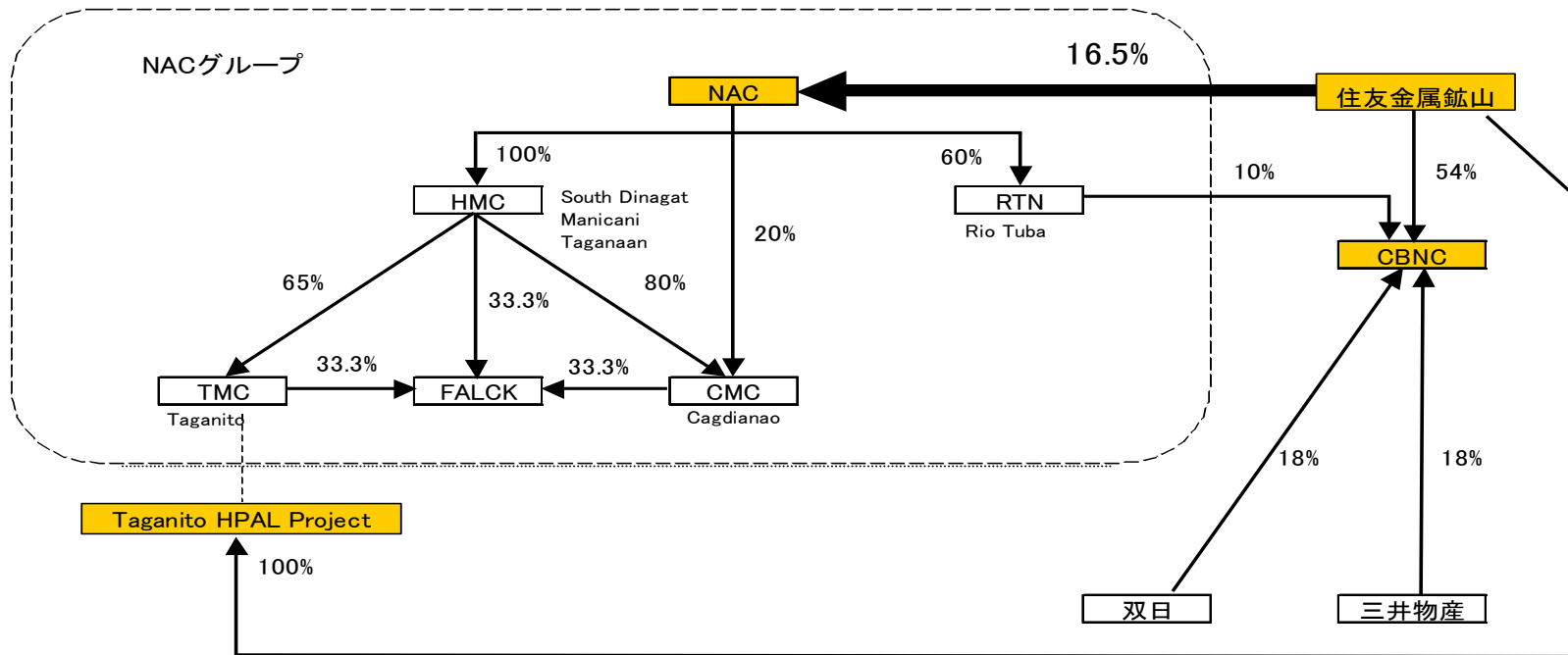


Ⅱ系列を順調に立上げ計画どおり増産
→E-Ni生産下期ほぼフル稼働約2万トン

5) ニッケル事業：10万吨体制

② フィリピンNAC社との関係強化

NACおよび子会社等の資本関係図



HMC: Hinatuan Mining Corporation
 RTN: Rio Tuba Nickel Mining Corporation
 TMC: Taganito Mining Corporation
 FALCK: 探鉱会社
 CMC: Cagdianao Mining Corporation
 CBNC: Coral Bay Nickel Corporation

 は、住友金属鉱山の関係会社

フィリピン最大手Ni鉱山会社NAC社
との関係を強化

5) ニッケル事業：10万吨体制

③ Taganito PJ推進

投資額 1.3BUS\$

SMMは権益Majorityを確保
NAC社の出資

操業予定期間 30年

スケジュール

2009年9月	PJ推進の発表
2010年3月	建設工事開始予定
2013年	建設工事完了 試運転開始 商業生産開始

HPAL法により年産 ニッケル・コバルト混合硫化物
5万t (Ni 3万t・Co 2.6kt)



6) 電子機能性材料事業～成長戦略の再構築

① 選択と集中

「成長戦略の再構築」即ち“選択と集中”の推進

(半導体材料事業部)

“事業シナジーの点から更に成長を描くことのできる事業分野へ”

“生産効率のアップ・調達合理化によりコストダウンを進め競争力の強化”
”周辺領域での市場の拡大が見込まれる新製品へ参入“

<事業再編>

①アジム電子(半導体外装メッキ) * 9/29公表 2010/12操業終結

②伸光製作所CSP(Chip Size Package)事業終結 2009/9

③住鋳テックの工場・物流統合

09/9御殿場工場停止・09/10三重倉庫廃止

(機能性材料事業部)

“当社の競争力および今後の成長性等を踏まえ、
今後積極的な展開を行う事業の絞込みを実施”

⇒ 環境・エネルギー関連事業 (太陽電池向け材料と2次電池材料)

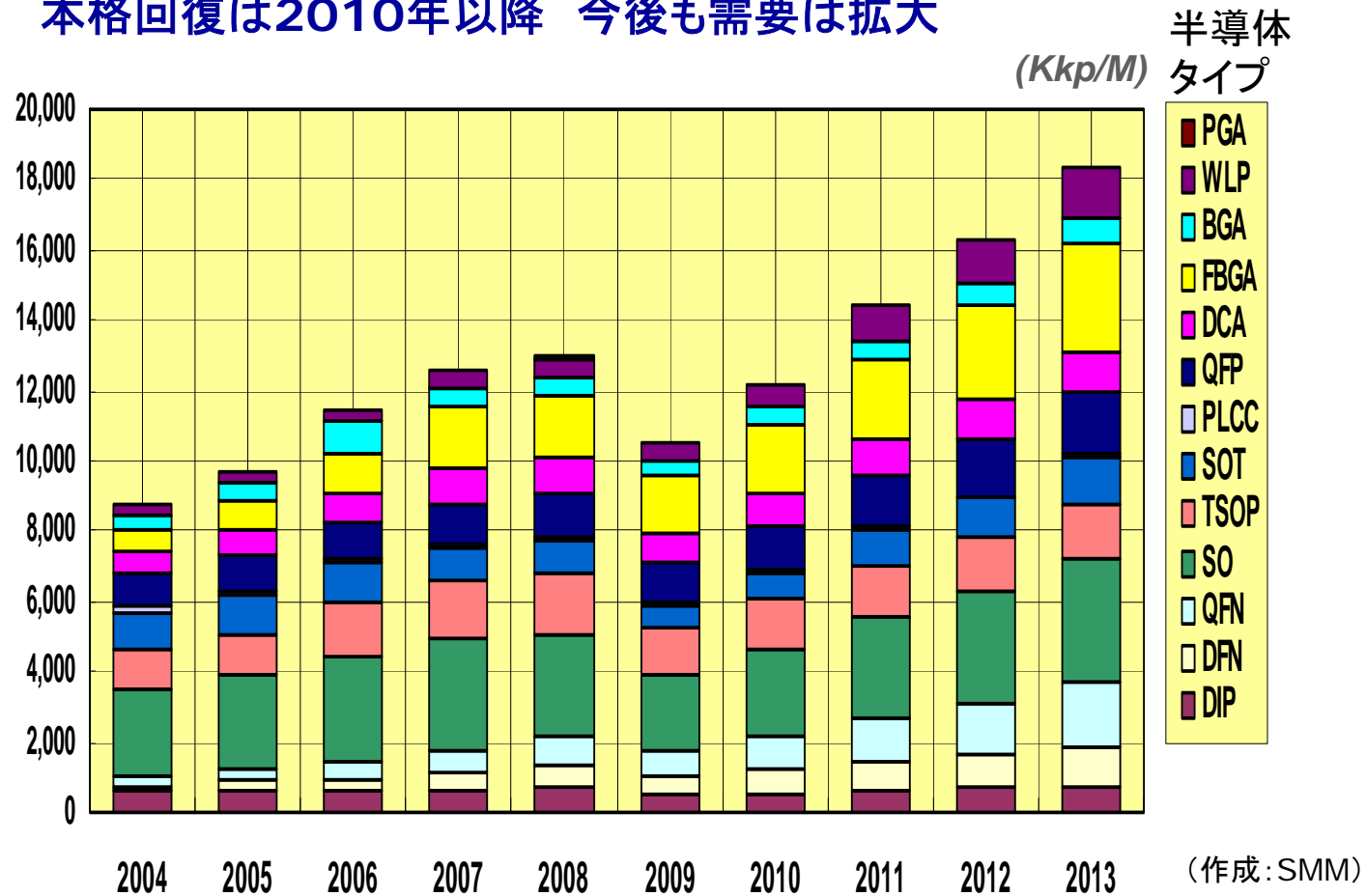
<事業再編>

撤退に着手している事業 ①YAG結晶事業 ②汎用酸化ニッケル・酸化コバルト

6) 電子機能性材料事業～成長戦略の再構築

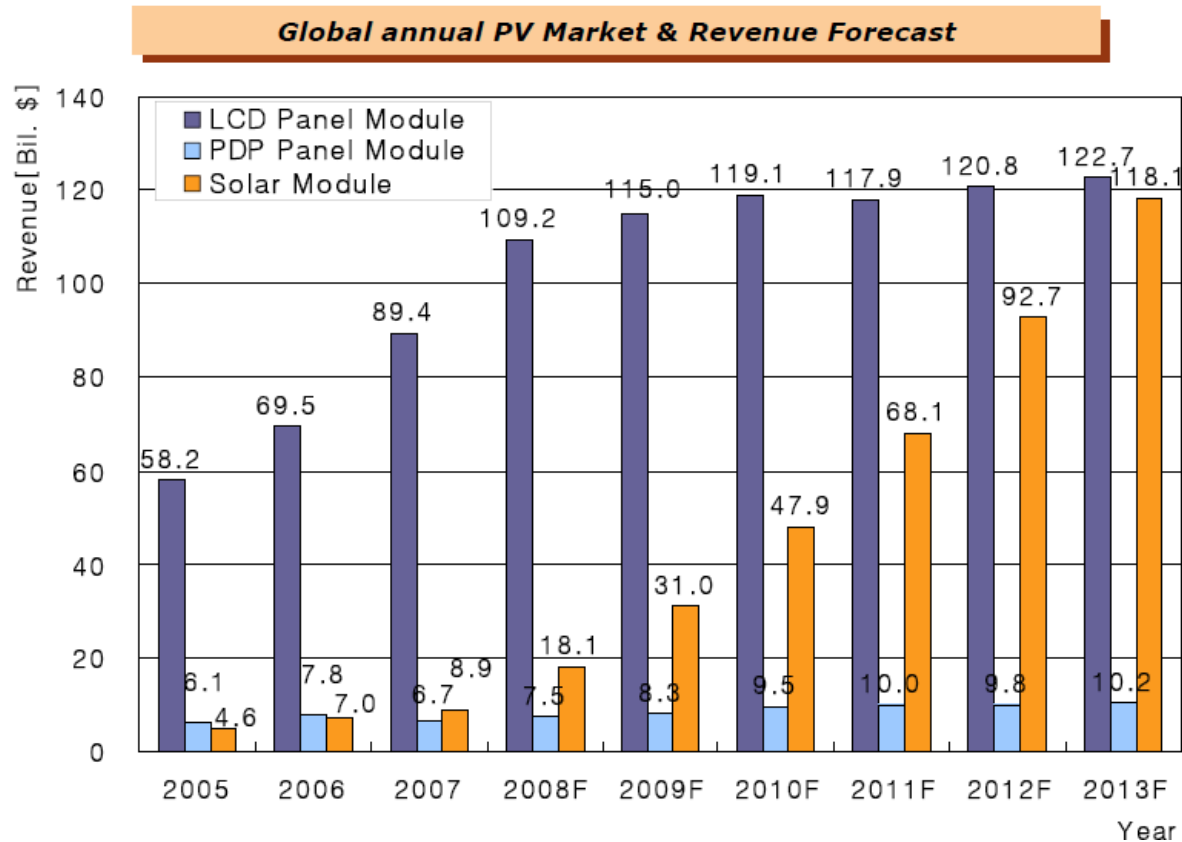
② 半導体の需要予測

本格回復は2010年以降 今後も需要は拡大



6) 電子機能性材料事業～成長戦略の再構築

③ 太陽電池の需要予測



需要の急増

当社が狙う 太陽電池向け材料

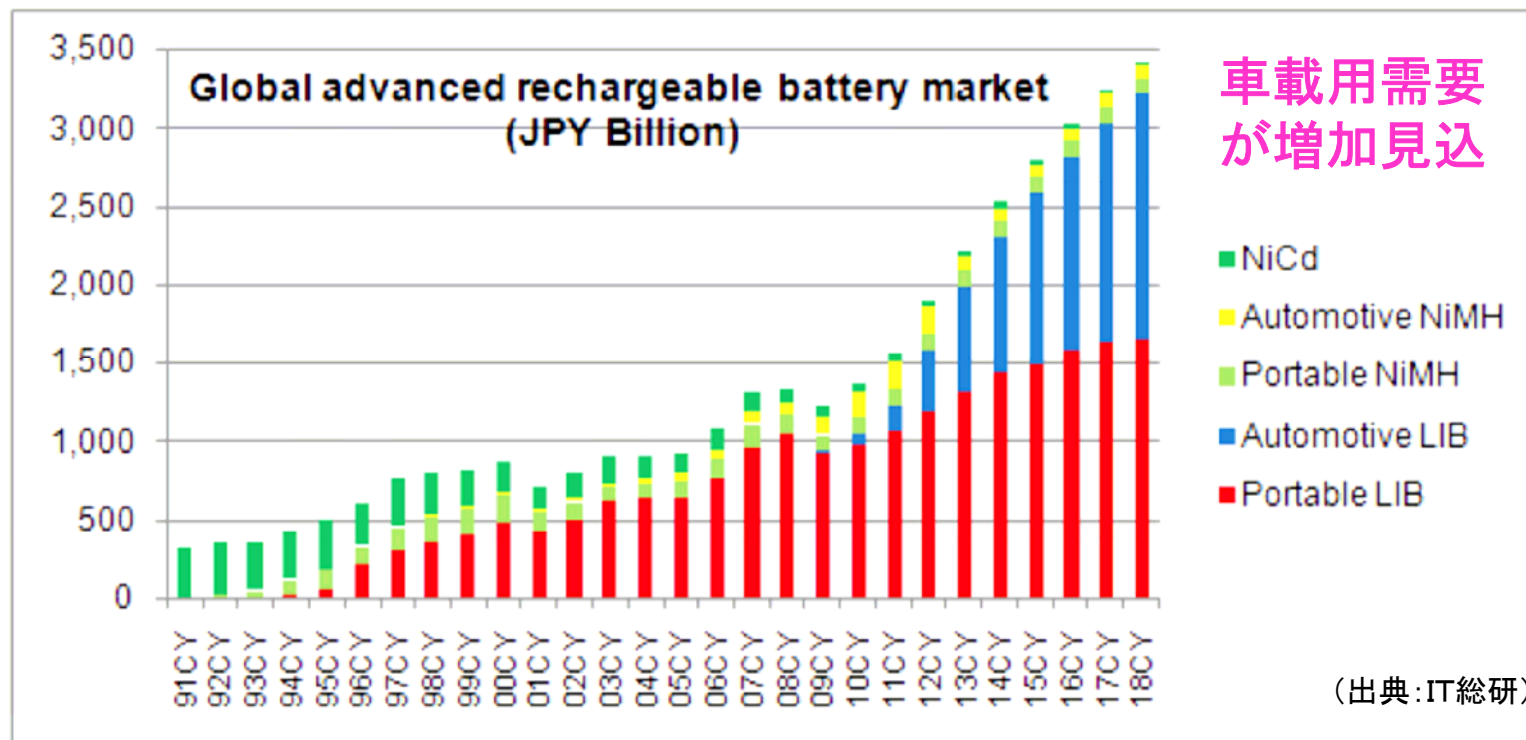
・透明電極用ターゲット ・配線用Ag樹脂ペースト

(出典: Display bank)

6) 電子機能性材料事業～成長戦略の再構築

④ 2次電池市場の需要予測

世界の2次電池市場の需要予測



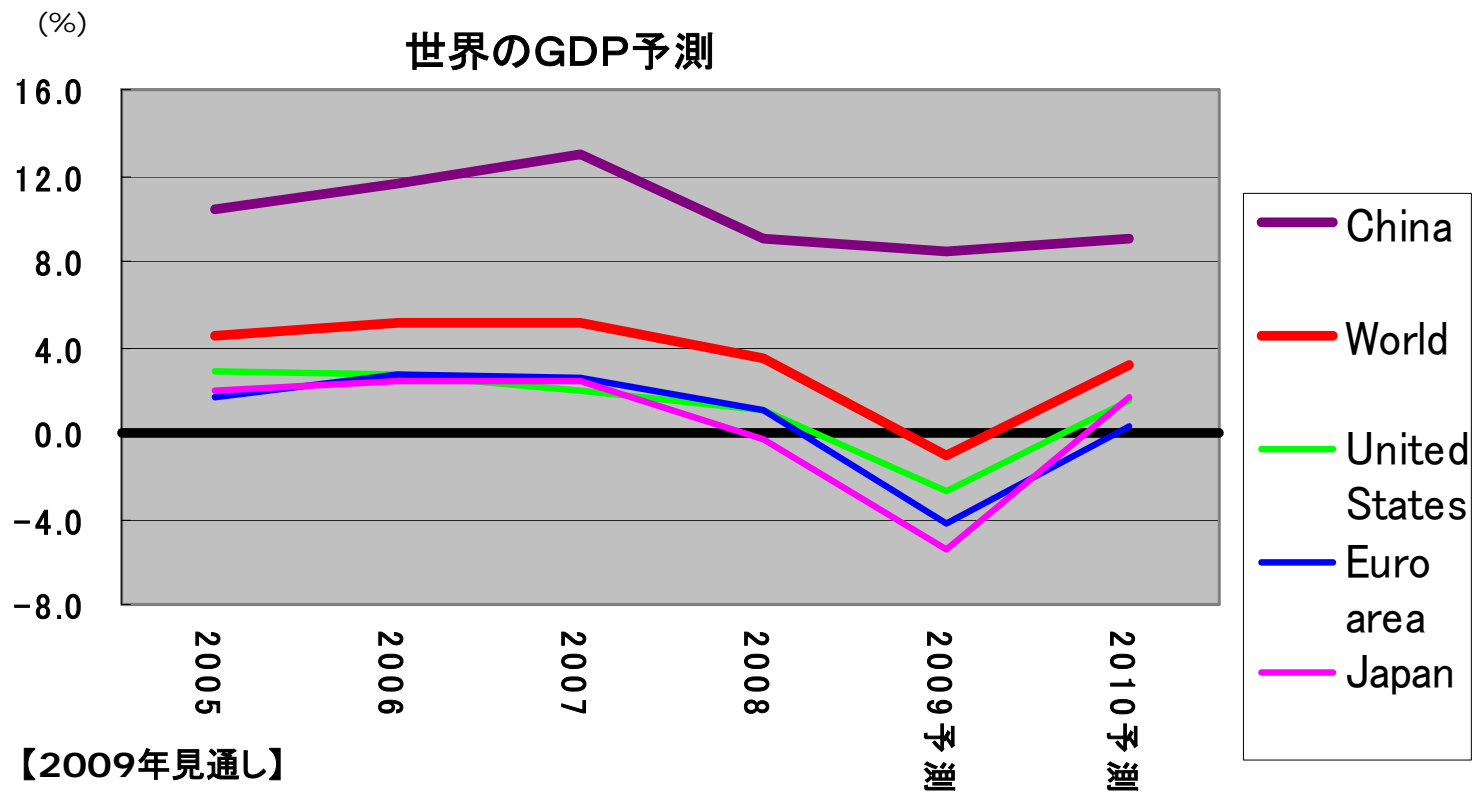
- 当社の製品
- ・HEV向け ニッケル水素電池の正極材: 水酸化ニッケル
 - ・HEV/EV、パソコン、携帯電話向け リチウムイオン電池の正極材: ニッケル酸リチウム(LNO)

Ⅲ. 当社事業の景況感と金属市況



栈橋(コーラルベイニッケル)

1) 世界・中国・地域別のGDP

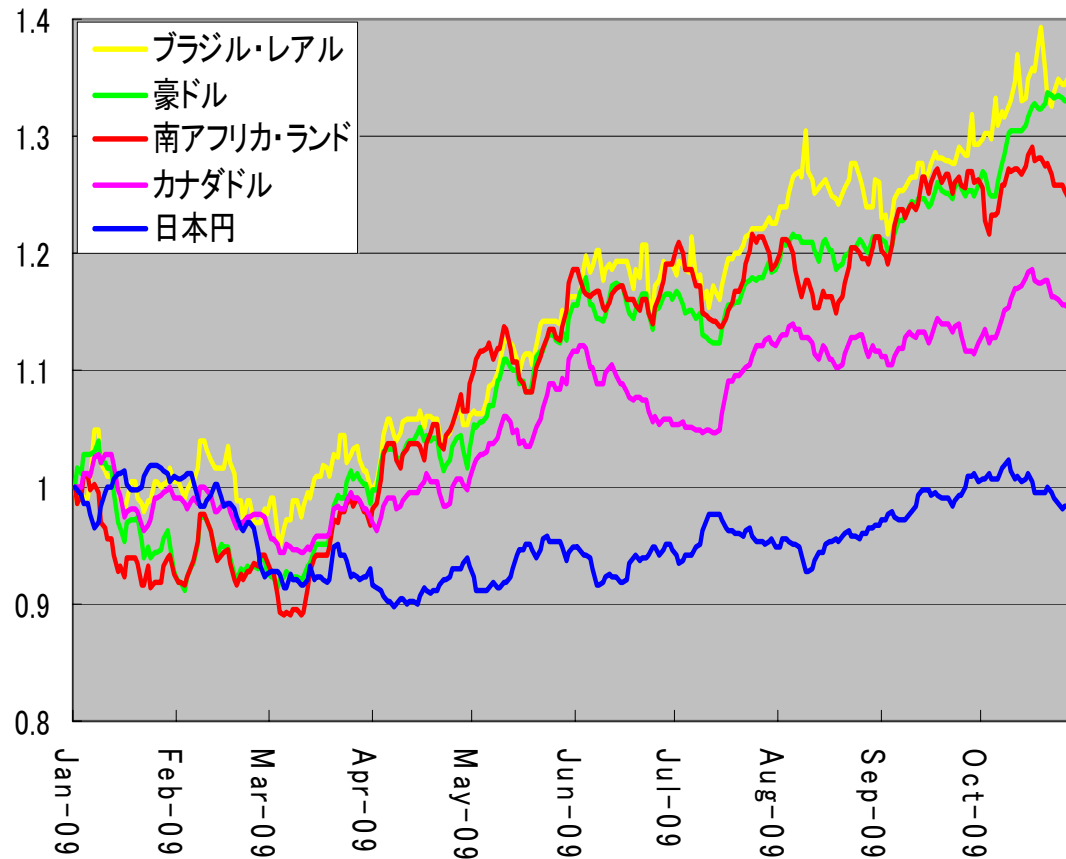


【2009年見通し】

(%)	World	China	USA	Euro area	Japan
09/10予想	△1.1	8.5	△2.7	△4.2	△5.4
09/4予想	△1.3	6.5	△2.8	△4.2	△6.2
09/1予想	0.5	6.7	△1.6	△2.0	△2.6

(出典: IMF)

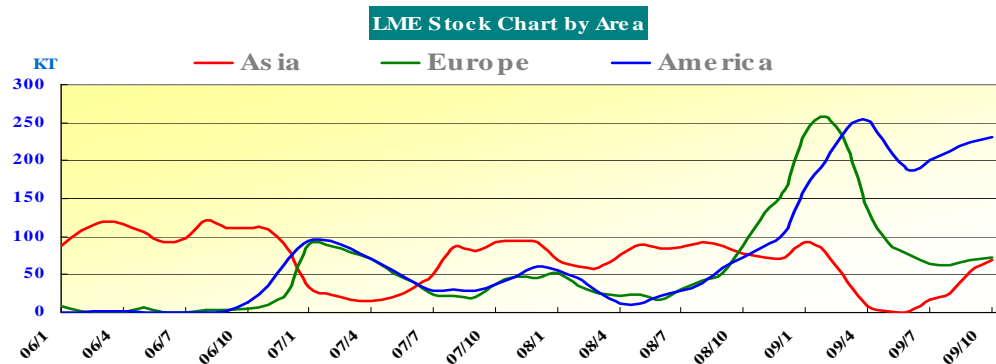
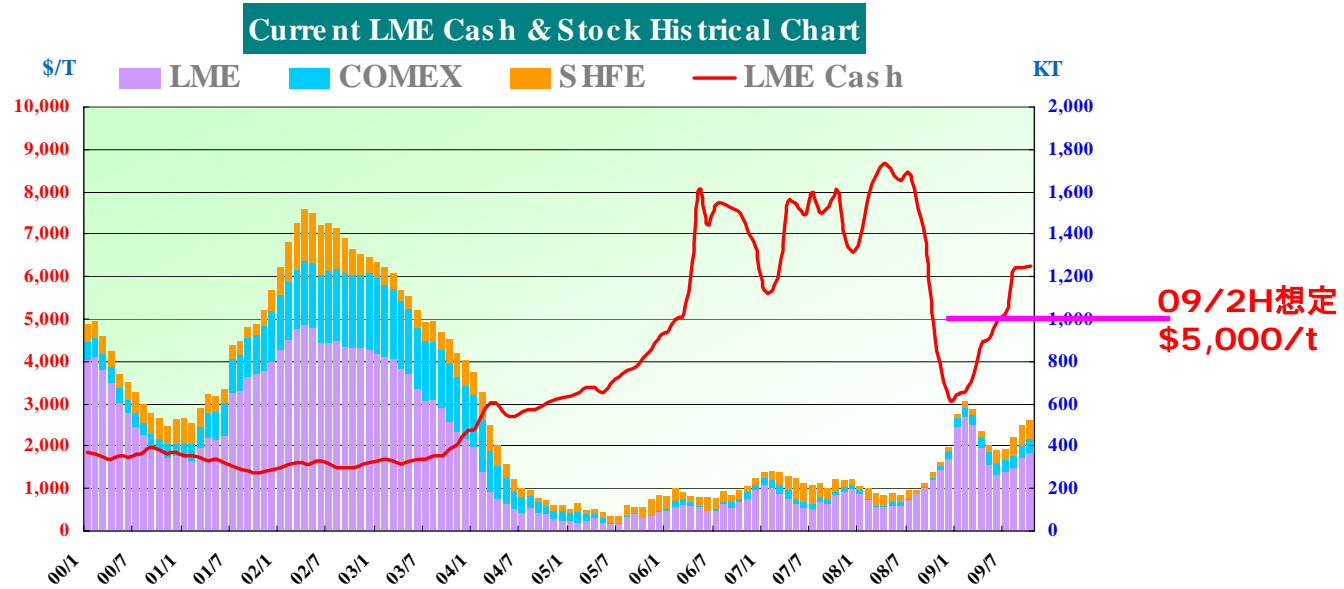
2) 資源国の為替動向



資源国通貨高
によるコスト増
US\$安の影響

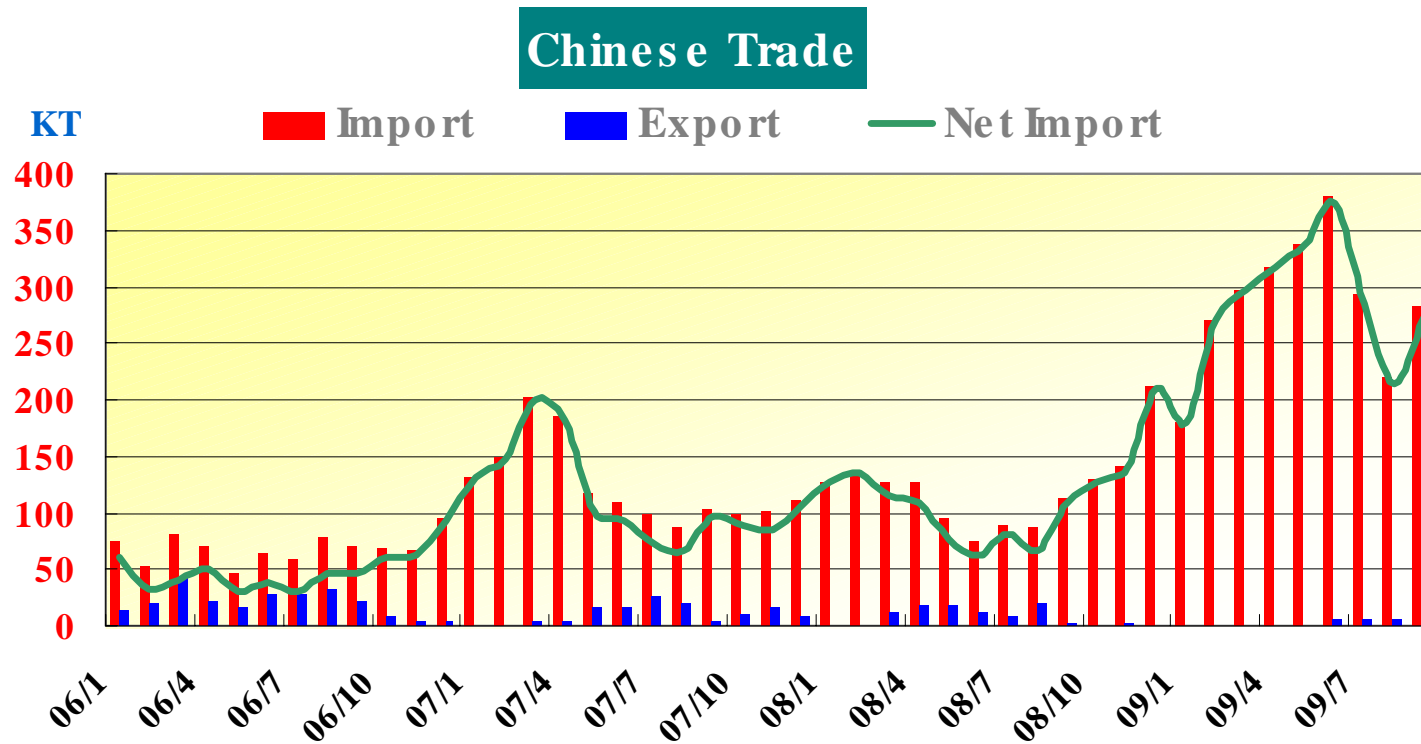
(作成:SMM)

3) 銅 ~ ① LME価格・LME/COMEX/SHFE在庫



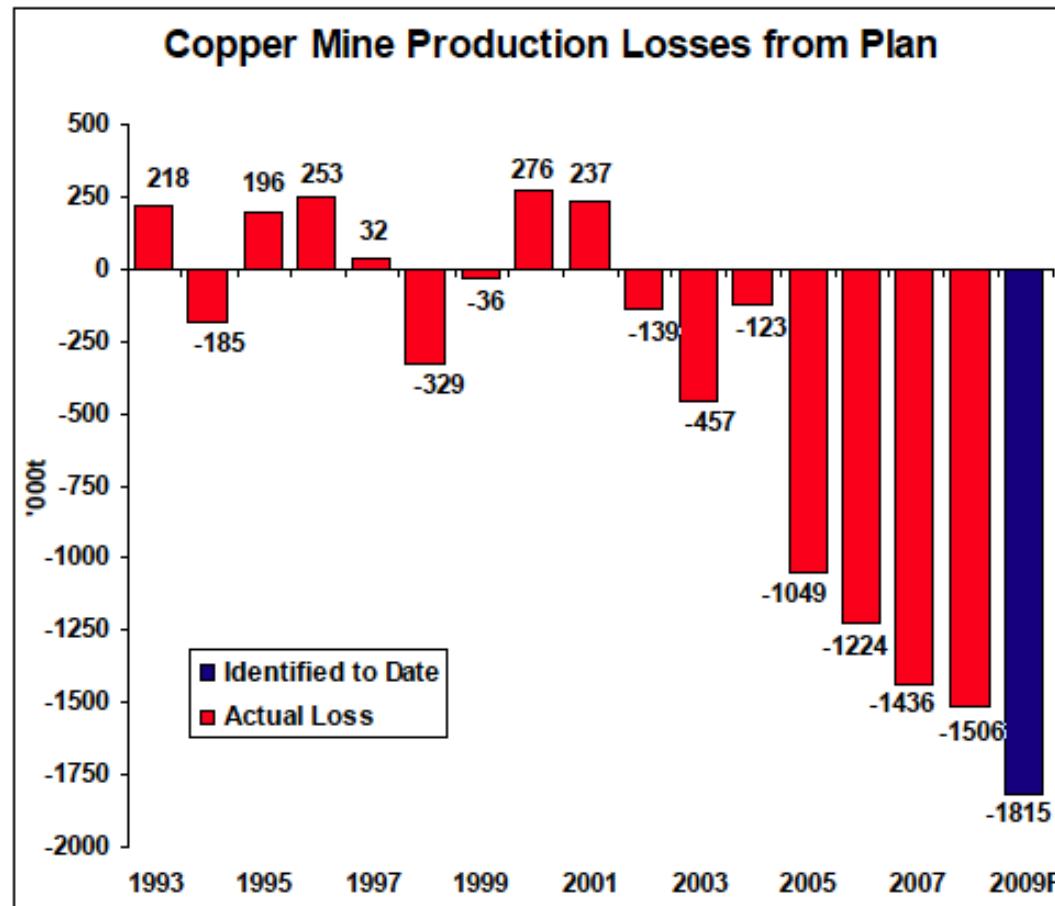
(作成:SMM)

3) 銅 ~ ②中国の銅輸入



(作成:SMM)

3) 銅 ~ ③Disruption



Source: Brook Hunt, ICSG, Ecwin, Macquarie Research, October 2009

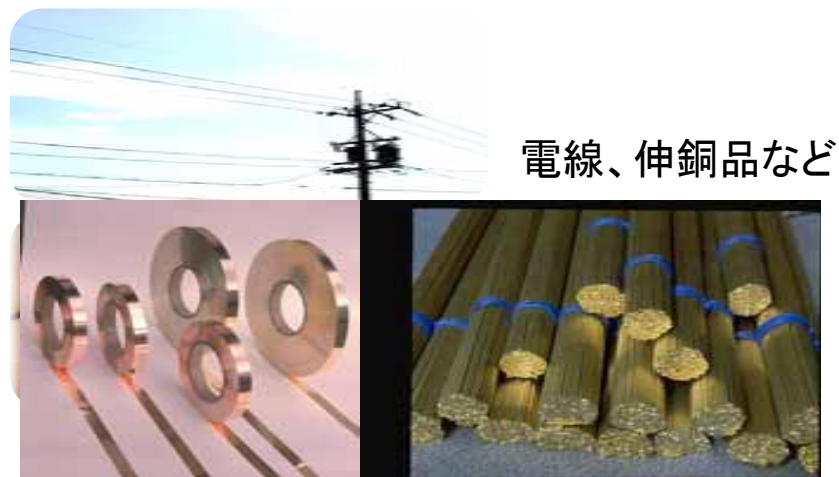
3) 銅 ~ ④ 労使協定の影響

鉱山	Owner	労働協約 失効年月日	生産量'08 (000mt)		現状
Peru					
Antamina	BHP/Xstrata /Teck	2009/7/24	Conc	343	'09/7/10~交渉、10月中に新しい労働協約を 締結する見込み(10/1)
Cerro Verde	Freeport	2011/8/31	Conc+EW	324	労働協約('08/9~'11/8)締結済み
Chile					
Spence	BHP	2009/9/31	EW	165	'09/9~12 労働交渉、10/8ストライキ実施可能性(10/1) →10/13よりストライキ開始、10/16に生産停止(10/15)
Andina	Codelco	2009/11/30	Conc	220	公式ネゴの前に提案された労働協約を却下(10/8) →今週末(10/19~の週)にネゴを開始する予定(10/20)
Escondida	BHP	2009/12/5	Conc+EW	1250	'09/9~12 労働交渉、BHPが提案した賃金額を 受入れる見込み(10/8) →10/13に賃金額 (44ヶ月に渡る5%賃金up、約\$25,000のボーナス) にて合意。(10/13)
Chuquicamata	Codelco	2009/12/31	Conc+EW	465	
Radomiro Tomic	Codelco	2009/12/31	EW	285	
Candelaria	Freeport	2013/7/31	Conc	179	労働協約('09/8~'13/7) 締結済み
影響を受ける可能性のある銅生産量				1,135	

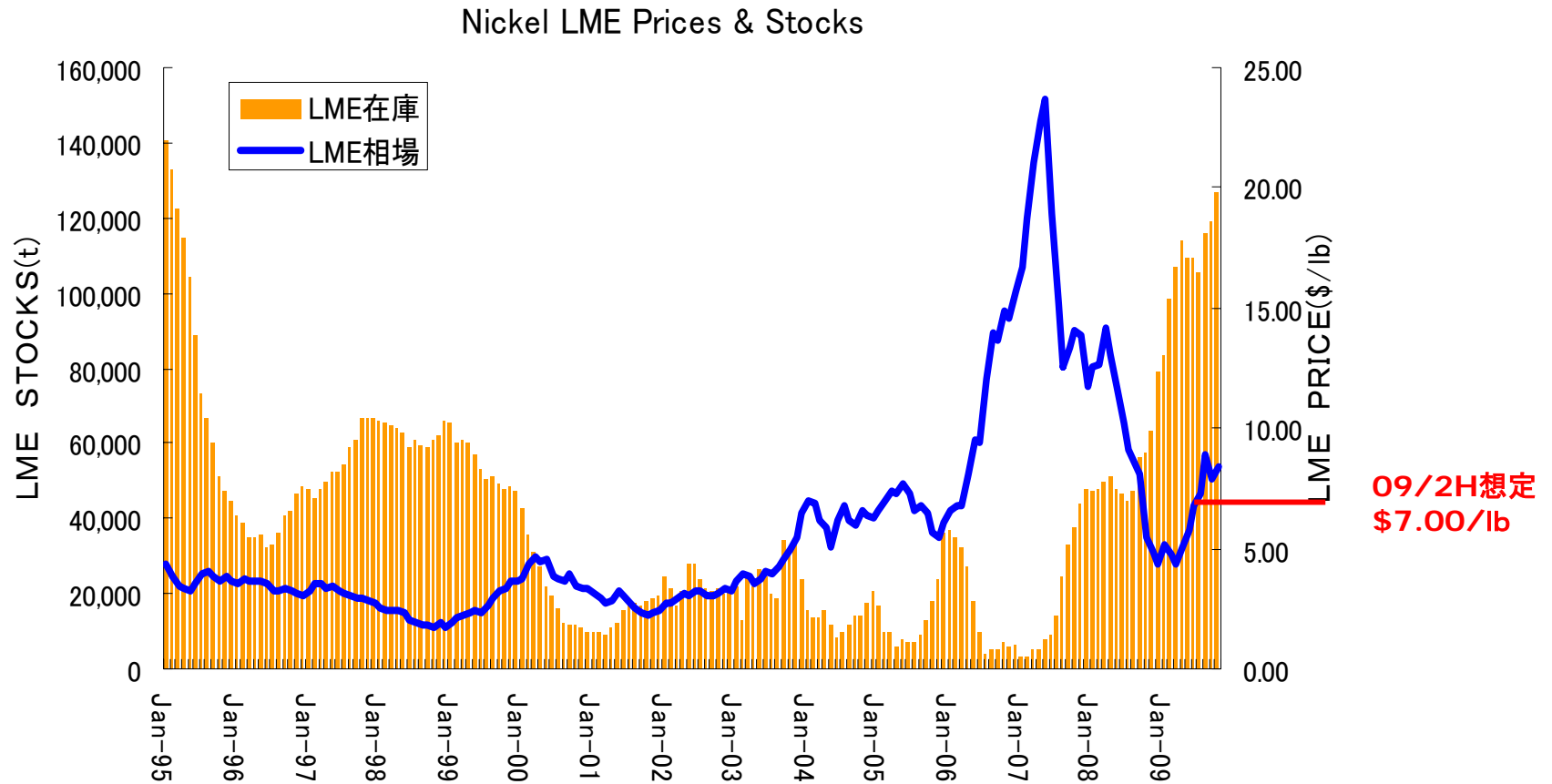
(出典:Macquarie Research, SMM)

3) 銅 ～ ⑤需給バランスと価格予測

	ICSG			Macquarie	SMM
(kt)	2008	2009	2010	2009	2009
生産	18,232	18,093	18,218	17,793	18,100
消費	18,006	17,725	17,679	17,356	17,900
バランス	226	368	539	437	200
FY(\$/t)	5,864	—	—	—	—
CY(\$/t)	6,956	—	—	5,247	—
予測時期	2009.10			2009.9	2009.4

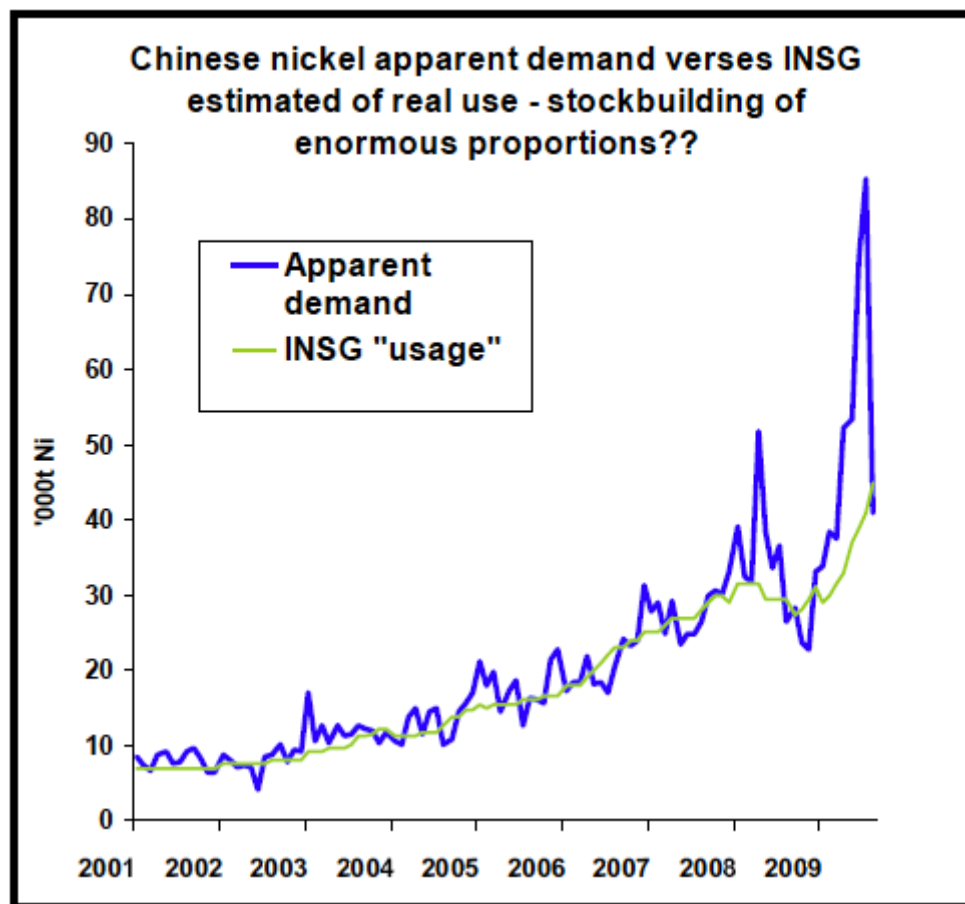


4) ニッケル ~ ① LME価格と在庫



(作成:SMM)

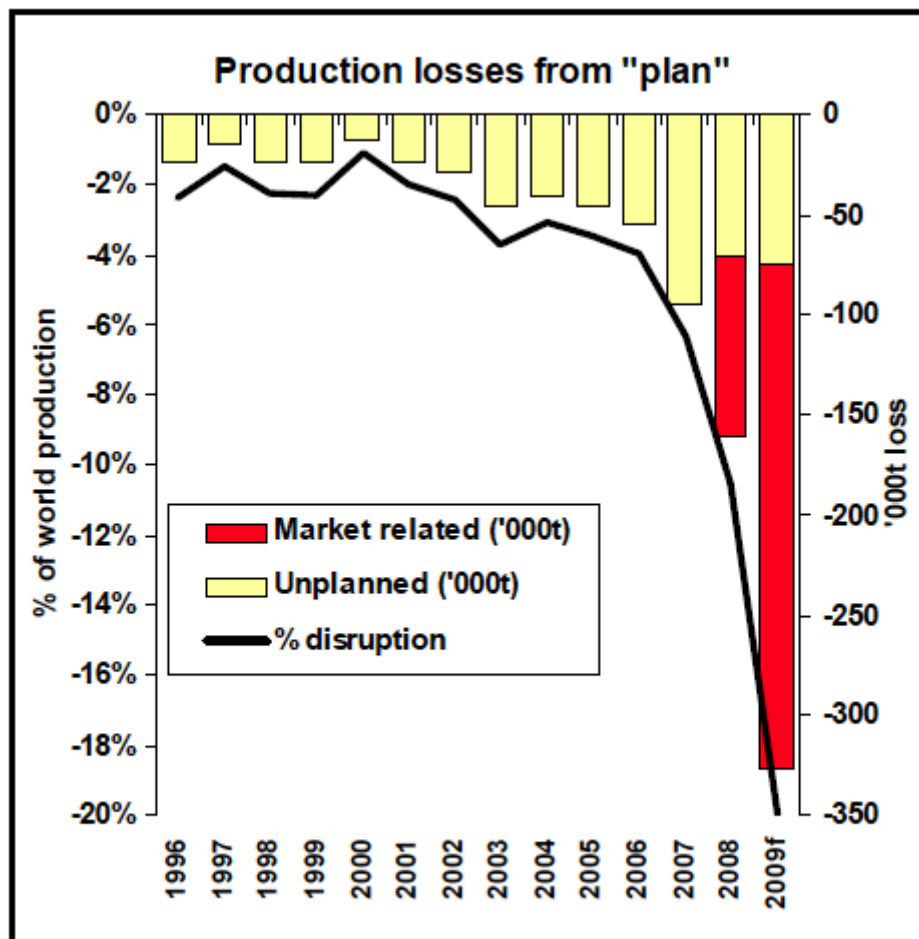
4) ニッケル ～ ②中国の見かけ需要



Apparent
demand
見かけ需要 =
生産 + 輸入 - 輸出

Source: INSG, Macquarie, October 2009

4) ニッケル ～ ③Disruption・労使協定の影響



Source: Macquarie Research, October 2009

(ストライキ)

Vale Inco Sudbury (55ktpa)

Voisey's Bay (85ktpa)

(生産中止)

BHP Ravensthorpe (45ktpa)

Xstrata Falcondo (30ktpa)

(PJの延期)

▪ Ramu (33ktpa)

▪ Onca Puma (58ktpa)

▪ Barro Alto (43ktpa)

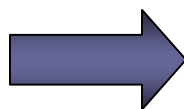
▪ Vermelho (46ktpa)

他合計 約300ktpa

4) ニッケル ～ ④需給バランスと価格予測

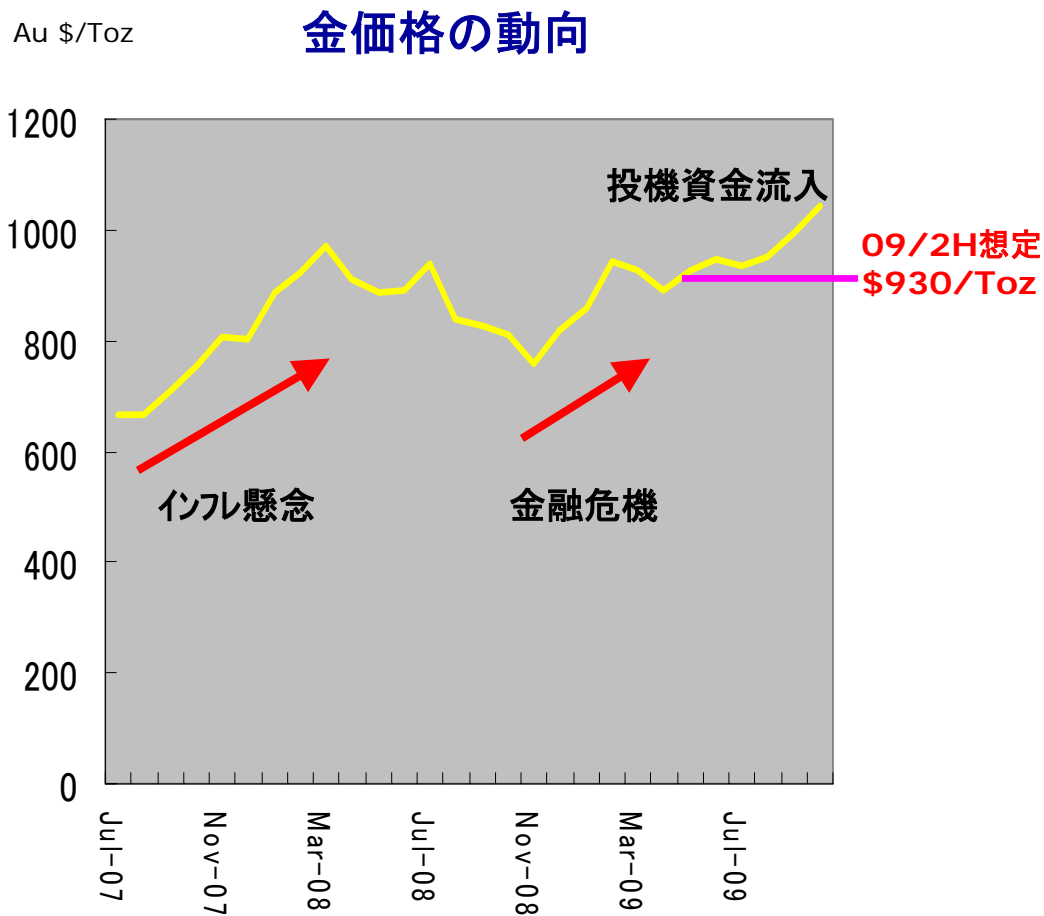
(Kt)	SMM			INSG			Macquarie
	2007	2008	2009	2008	2009	2010	2009
生産	1,395	1,363	1,263	1,380	1,280	1,440	1,321
消費	1,377	1,289	1,247	1,290	1,210	1,350	1,322
バランス	18	74	16	90	70	90	-1
予測時期	2009.9			2009.10			2009.9
FY (\$/lb)	15.47	7.48	6.78	—	—	—	6.83
Ni 銑鉄(内数)	85	71	85	—	—	—	
Stainless steel	28,525	25,913	24,140	—	—	—	25,098

ニッケル



特殊鋼、ステンレス、電子材料など

5) 金 ~ 価格動向

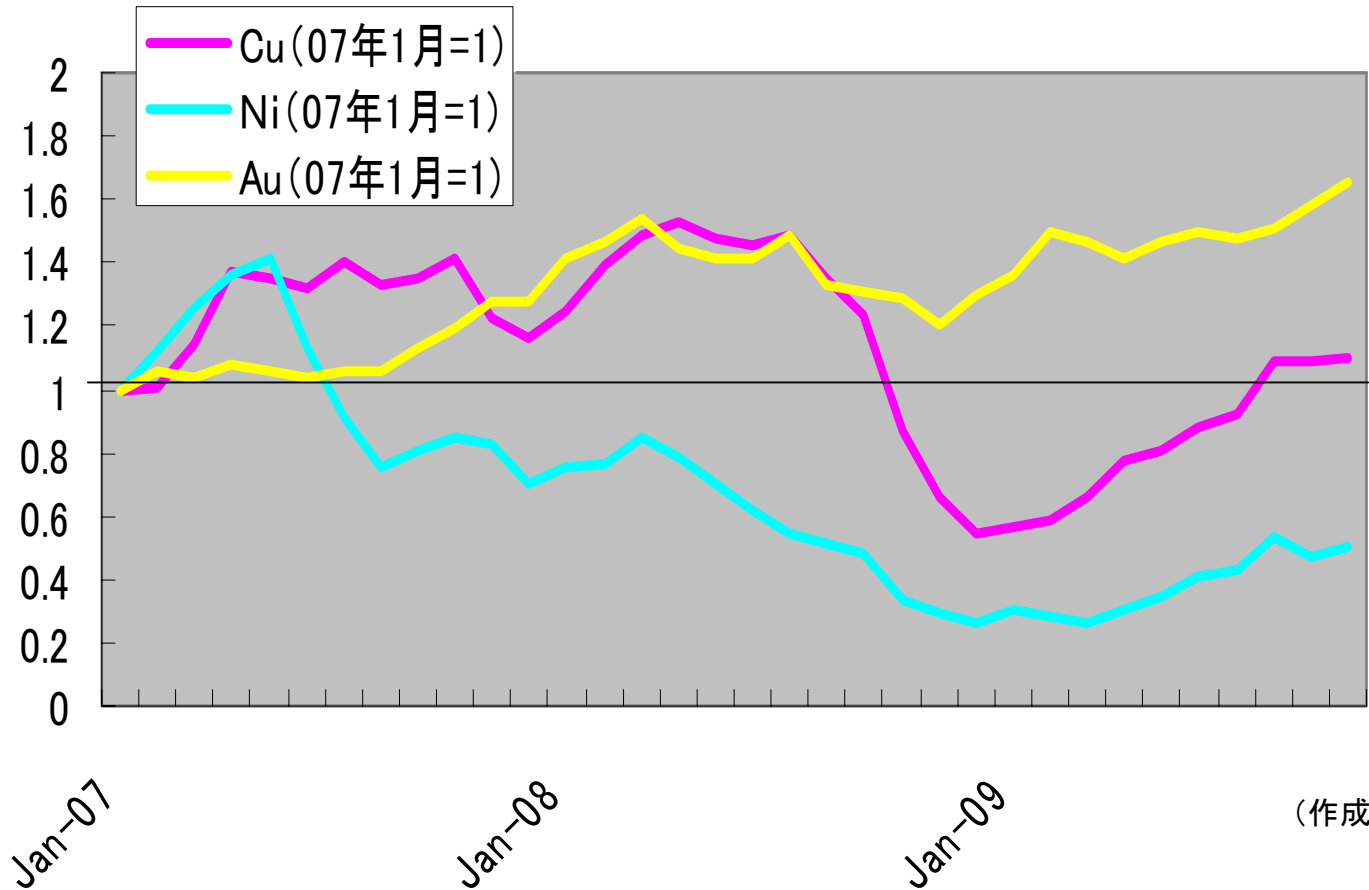


公的機関金保有量
(2009年6月末時点)

	国名	トン	外貨準備 の中の金 の割合
1	米国	8,133	78.3%
2	ドイツ	3,412	69.5%
3	IMF	3,217	-
4	イタリア	2,451	66.1%
5	フランス	2,450	73.0%
6	中国	1,054	1.8%
7	スイス	1,040	37.1%
8	日本	765	2.1%
9	オランダ	612	61.4%
10	ロシア	536	4.0%
14	インド	357	4.0%

(作成:SMM)

6) SMM Metal Portfolio (Cu・Ni・Au)



(作成:SMM)

SMM主要メタル: Cu・Ni・Au 価格動向

IV. 業績ハイライト



第2系列の初製品(コーラルベイニッケル)

1) 連結業績推移 ①年度推移

(億円)
(100Millions of JPY)

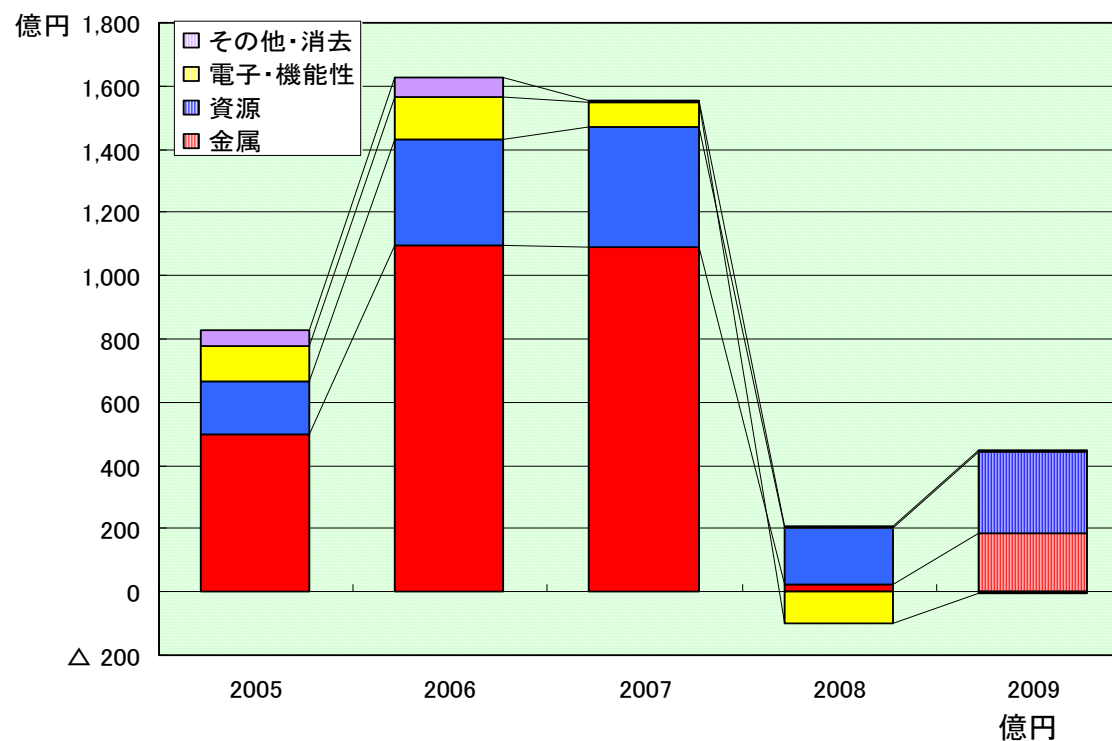
	FY05	FY06	FY07	FY08	FY09 予想
売上高 Sales	6,256	9,668	11,324	7,938	6,650
営業利益 Operating Profit	828	1,626	1,554	105	440
経常利益 Recurring Profit	997	2,053	2,179	326	540
当期利益 Net Income	628	1,261	1,378	220	360
一株当り当期利益 (JPY) Net Income / Share	109.96	220.49	238.13	38.87	64.23
一株当り配当金額 (JPY) Dividend / Share	14.00	27.00	30.00	13.00	14.00

1) 連結業績推移 ②半期推移

(億円)
(100Millions of JPY)

	FY07 1H	FY07 2H	FY08 1H	FY08 2H	FY09 1H	FY09 2H予想
売上高 Sales	5,932	5,392	4,905	3,033	3,259	3,391
営業利益 Operating Profit	1,005	549	472	△367	233	207
経常利益 Recurring Profit	1,371	808	794	△468	278	262
当期利益 Net Income	915	463	521	△301	169	191
一株当り配当金額 (JPY) Dividend / Share	15.00	15.00	13.00	0.00	7.00	7.00

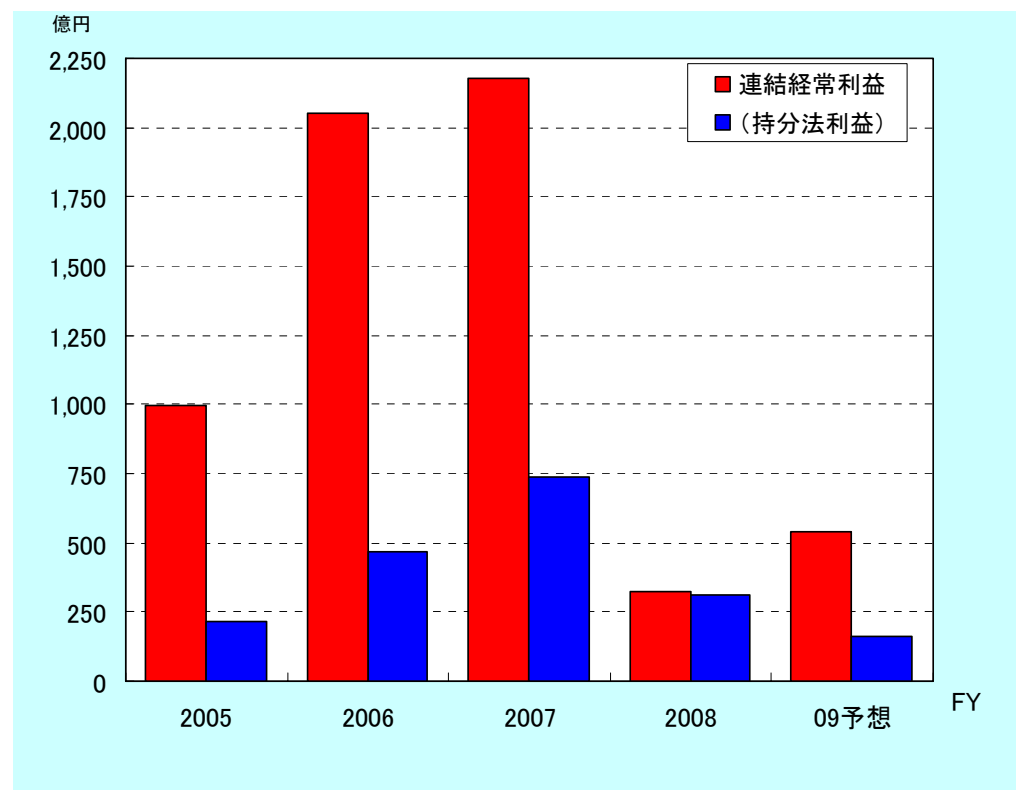
2) セグメント別営業利益



部門	2005	2006	2007	2008	2009予想
金属	497	1,096	1,088	24	182
資源	171	335	381	177	258
電子・機能性	112	136	82	△ 102	△ 5
その他・消去	48	59	3	6	5
再計	828	1,626	1,554	105	440

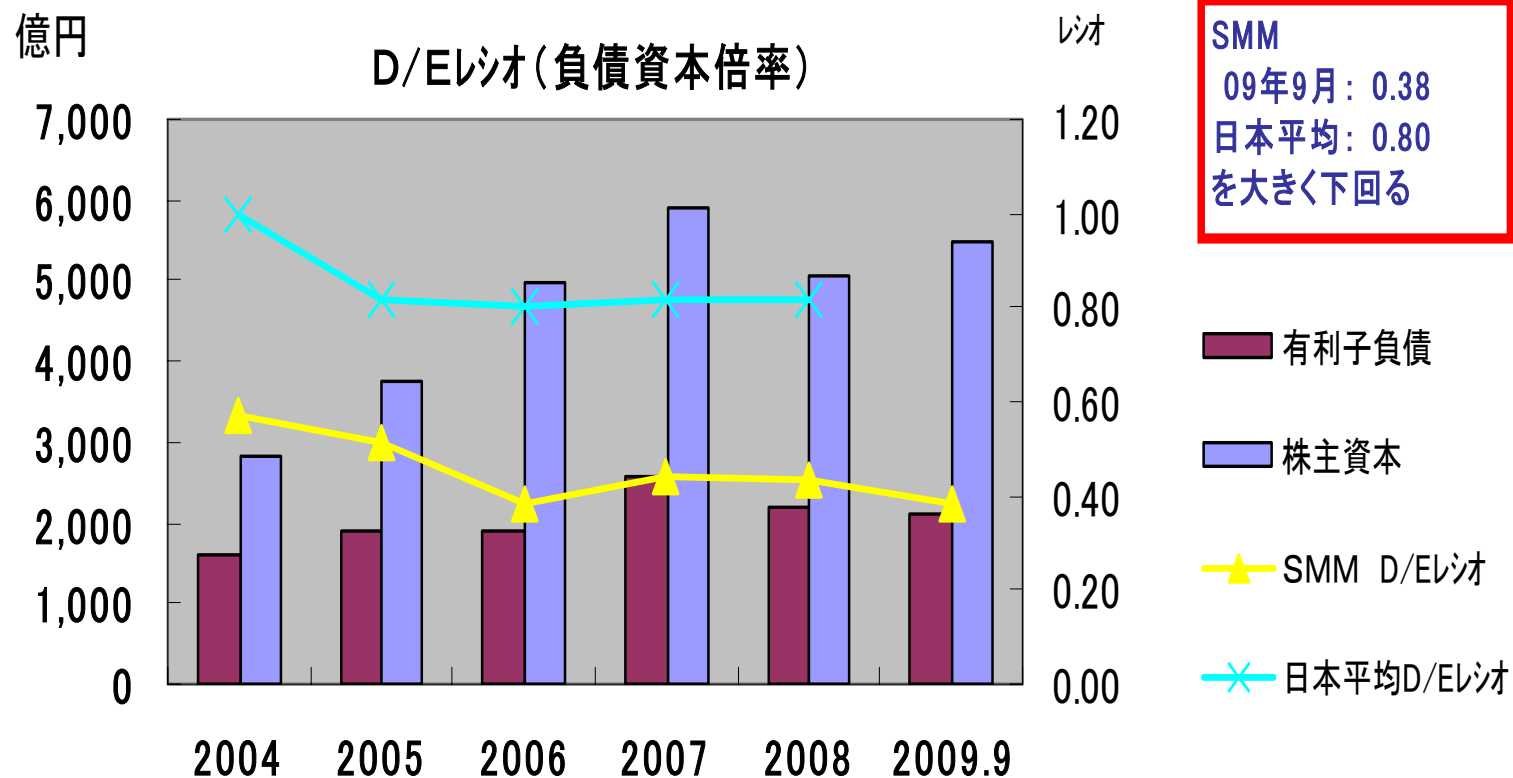
SUMITOMO METAL MINING

3) 持分法投資利益



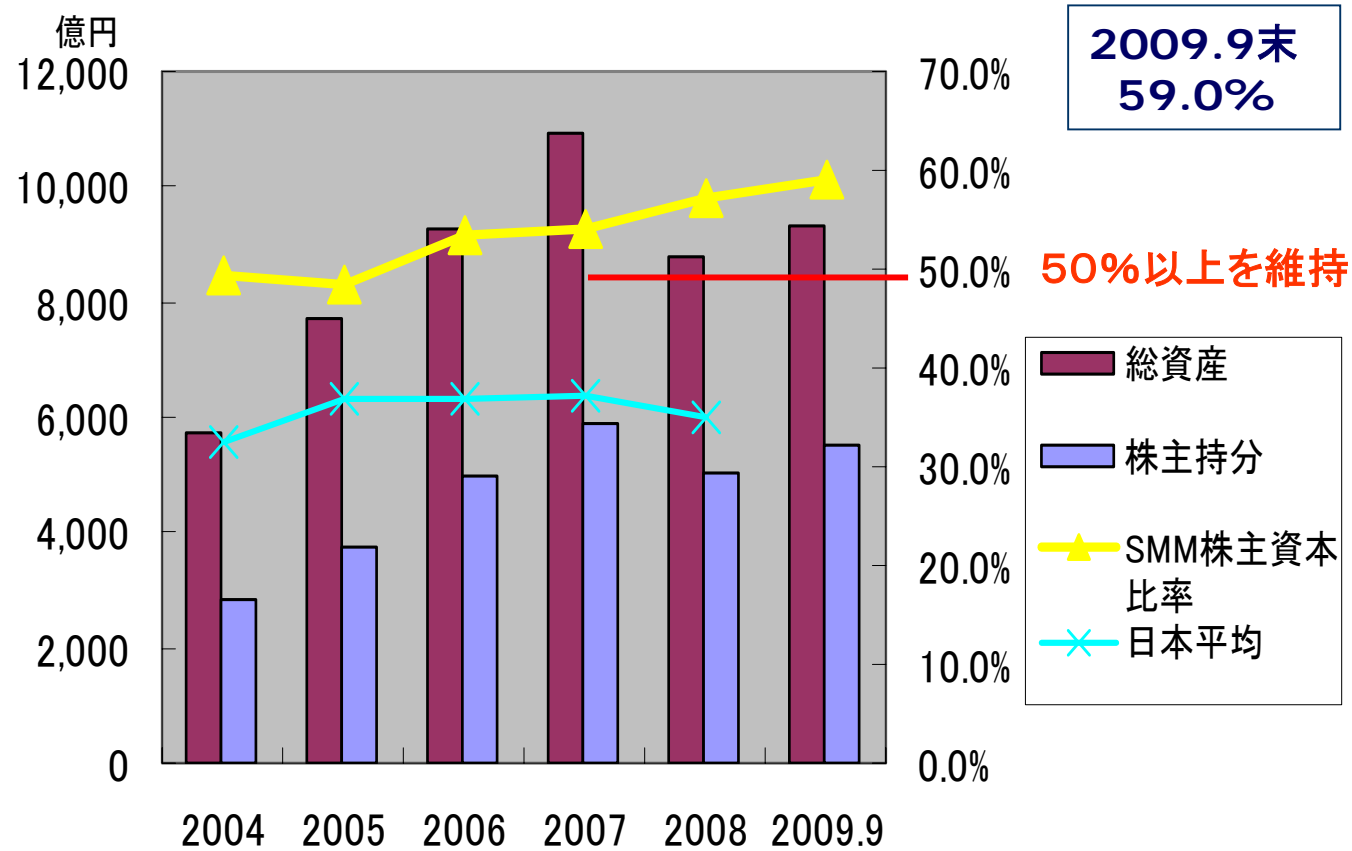
	億円				
	2005	2006	2007	2008	09予想
連結経常利益	997	2,053	2,179	326	540
(持分法利益)	219	467	740	315	150

4) 健全な財務状況: D/Eレシオ



JCR格付
 短期 J-1 (最高水準)
 長期 A+ (上位約30%)

5) 健全な財務状況: 株主資本比率



6) センシティブティ

億円／年

要素	変動幅	FY09予想
Cu	±10 ¢ /lb	14 / 28
Ni	±10 ¢ /lb	7 / 8
Au	±10 \$ /Toz	5 / 5
¥ / \$	±1 ¥ / \$	7 / 7

(注)

- 1) 営業利益／経常利益 に対する影響額
- 2) ¥/\$は金属加工収益相当の為替差のみ。

海外関係会社の連結時の業績に対する為替差を含まず。

用語集

資源・金属

1) 金属取引

(LME)

London Metal Exchange (ロンドン金属取引所)。銅、ニッケル、アルミ、鉛、亜鉛など非鉄金属専門の取引所。LMEで決定された金属取引価格は、金属地金の販売価格や原料購入価格の国際的指標として使われる。

(TC/RC)

TC: Treatment Charge (熔錬費)

RC: Refining Charge (精錬費)

金属原料(銅精鉱、ニッケル鉱など)の購入条件の一部として使われる費用。たとえば銅精鉱の購入価格は「一定時点のLME価格-その取引に用いられるTC/RC」(プラス減条件)という条件が用いられる。

(London Fixing)

金はLMEに上場されておらず、価格は市場参加者の相対取引で決定されている。このため毎日午前/午後の2回、ロンドン貴金属市場協会のメンバーである金融機関が発表するLondon Fixing 価格が一日の基準となる価格として取引の指標となっている。

(重量ポンド (lb))

ヤード・ポンド法の重量単位。銅・ニッケルの計量基準や価格基準として使われるほか、TC/RCの算出基準として用いられる。1ポンドは453.59グラム、1トンは2204.62ポンド。

(トロイオンス (troy ounce))

金・銀など貴金属の重量単位で、1トロイオンスは約31.1グラム。なお「トロイ」はフランス中部・シャンパーニュ地方の都市で、中世ヨーロッパの中心的な市場であった。ここで金・銀と商品を交換する単位として使われたトロイオンスという単位が現在も金の取引単位として使われている。

2) 金属製錬

(製錬)

鉱石その他の原料から有用金属を抽出することをいい、主に乾式製錬・湿式製錬に分けられる。当社では東予工場(愛媛県西条市)の上工程(溶錬工程)は乾式製錬、ニッケル工場(愛媛県新居浜市)は全面的に湿式製錬。なお、日本語では「精錬」という漢字もあるが、こちらはすでに高い品位の金属をさらに高めるといときに使われることが多い。「Smelting」を製錬、「Refining」を精製とすることもある。

(乾式製錬)

高温の炉で原料鉱を溶かし、溶けた状態で金属を分離する製錬方法。一度に大量の処理が可能である一方、定期的に耐熱設備の補修が必要となる。

(湿式製錬)

金属や不純物が薬液に溶け、化学反応を起こすことなどを利用した製錬方法。安定して継続処理が可能な製錬方法であるが、薬液のコストがかかる。

3) 金属原料

(硫化鉱)

銅・ニッケルなどの金属と硫黄が結合した鉱石のこと。製錬する場合、硫黄が燃えることで溶解させることができるため、乾式製錬を行うことが多い。

(酸化鉱)

金属が酸化した鉱石のこと。硫化鉱と違って熱して溶解する場合はエネルギーコストがかかるため、乾式製錬には不向きとされ湿式製錬の原料とすることが多い。

(銅精鉱)

銅製錬に用いられる原料で、銅が30%程度含まれており、残りはほとんどが硫黄と鉄。おもに硫化鉱から生産される。

現在、海外鉱山で採掘される「鉱石(Ore)」の品位はおおよそ1%前後であり、鉱山で選鉱を行って品位を高めた「精鉱(Concentrate)」の状態にしている。国内の銅製錬所が輸入している主な原料はこの銅精鉱となる。

(ニッケル酸化鉱)

ニッケル製錬には品位の比較的高い硫化鉱が主に利用されていたが、鉱石としては酸化鉱のほうが硫化鉱と比べて多く分布しており、現在の埋蔵量は硫化鉱3:酸化鉱7といわれている。これまでは製錬する際のコストや技術の問題がありあまり利用されていなかったが、当社はHPAL技術により低品位の酸化鉱からのニッケル製錬に成功した。

(MS)

ニッケル・コバルト混合硫化物 (Mixed Sulfideの略)。CBNCで生産する、ニッケル品位約55~56%の中間原料。当社電気ニッケルの原料となる。

(マット)

金属の硫化物のことを意味する。ニッケル工場では、PTインコ社からニッケルマット(品位77~78%程度)を原料として購入して電気ニッケルを生産している。

(自山鉱比率)

自社の製錬原料のうち、出資鉱山に保有する権益により確保される原料の割合。一般的に、鉱山では出資比率に応じて原料鉱を引き取る権益を有する。ただし、セロ・ベルデ鉱山からの原料については、当社は2006年の稼働から当初10年間、出資比率(21%)より多くの買取権益(50%)を有している。

用語集

4) ニッケル生産プロセス (CBNC)

当社子会社である、コーラルベイ・ニッケル・コーポレーション（フィリピン）の略。HPAL法でニッケル・コバルト混合硫化物（MS）を製造し、当社ニッケル工場（愛媛県新居浜市）に輸出している。

(HPAL)

High Pressure Acid Leaching（高圧硫酸浸出）の略。これまで回収が難しいとされていた、酸化鉱からニッケルを回収する技術。当社が世界に先駆け商業ベースでの実用化を行った。酸化鉱を高温高圧状態の硫酸と安定的に反応させることにより、高品位のニッケル原料を生産している。

(MCLE)

Matte Chlorine Leaching Electrowinning（マット塩素浸出電解採取）の略。当社ニッケル工場で採用されている製造プロセス。マットおよびMSを高圧化で塩素に溶かし、電解法にて高純度ニッケルを生産する。他の製法と比べてコスト競争力があるが、操業技術は難しく、類似した技術で商業化している生産者は当社以外には2社しかない。

5) 金属の主な用途

(銅の主な用途)

電線、銅管などに加工される。電力ケーブルのほか、民生分野では自動車や住宅関連の配線、エアコンなどに使われている。

(電気ニッケルの主な用途)

品位は99.99%以上。特殊鋼や電子材料、めっきなどに使われる。日本国内で電気ニッケルを生産しているのは当社ニッケル工場のみ。

(フェロニッケルの主な用途)

フェロニッケルはニッケル品位20%程度のニッケル・鉄の合金。ニッケル系ステンレス（ニッケル10%前後含む）が主用途。当社グループでは日向製錬所（宮崎県日向市）で生産している。

(金の主な用途)

世界的には投資・宝飾用の需要が多い。日本国内の産業用としてはやわらかく、伸びやすい特性をいかし、電子製品向けとしても多く使用されている。当社が生産した金も一部はグループ会社がボンディングワイヤーに加工し、販売している。

電子・機能性材料

(2層めっき基板)

原料となるポリイミドフィルムの上に、銅をめっきした基板材料。COFの材料として用いられる。当社は大型液晶ディスプレイ向けでは全世界で70%以上のシェアを有している。

(COF)

Chip on film。液晶駆動用ICに用いられる実装材料で、液晶パネルとICを接合する。

(L/F)

リードフレーム（Leadframe）。半導体チップとプリント配線板を結ぶ働きをする実装材料。ニッケルや銅を主成分とした合金が薄板状で用いられる。

(ボンディングワイヤー)

数十ミクロン単位の細さの金線。半導体チップの電極とリードフレームなどを結ぶ導線として使われる。

(二次電池)

充電して再利用できる電池をいう。当社の電池材料は、車載用としてハイブリッド自動車、民生用としてノートパソコンの電源となる、ニッケル水素電池やリチウムイオン二次電池の正極材として使用されている。



ご注意

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている将来の予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。したがって、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。